

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(平成25年度～平成29年度)

「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」(平成27年度～令和元年度)

「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」

2022(令和4)年度



地(知)の拠点 継続事業

成果報告書



中部大学

はじめに

中部大学は、建学の精神「不言実行、あてになる人間」の下、地域社会について考え行動できる人材の育成を進めるため、2013年度～2017年度には、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（以下「COC事業」という）に採択された「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」を、2015年度～2019年度には、COC事業に加えて文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（以下「COC＋事業」という）に採択された「岐阜でステップ×岐阜にプラス地域志向産業リーダーの協働育成」を展開しました。COC事業が終了した2018年度からは、すでに役割を終えた一部の事業は整理統合しつつ、この事業を大学独自で取り組む事業として継続し、COC＋事業が2019年度をもって終了したことを受けて、2020年度からはその内容も整理しながら組み込みました。（以下「COC継続事業」という）

COC継続事業の目的は、中部大学が地域の知の拠点として、地域と連携した知の創造を通じて、地域に目を向け問題解決に取り組むことができる人材としての地域創成メディエーターを育成するとともに、地域再生、地域活性化に貢献することです。

本年度はこの目的を達成するため、次の3つの活動①地域関連の正課教育「地域共生実践」と地域関連科目の授業の実施、②本学と地域（春日井市、春日井商工会議所、高蔵寺ニュータウン等）が連携しての生活・住環境を考えるまちづくり、③同じく本学と地域が連携しての世代間交流プログラムを実施しました。当初COC事業の一つとして開始したシニア大学（中部大学アクティブアゲインカレッジ：CAAC）は、本学のリカレント教育の柱として充実させるべく、2021年度よりCOC継続事業から独立させ展開しております。

事業目的の一つである地域創成メディエーターの育成については、今年度も昨年度と同様にループリック評価を用いて、その達成要件を審査し、新型コロナウイルスの感染拡大による活動の制約があったにもかかわらず、多くの学生を地域創成メディエーターに認定する運びとなりました。

本成果報告書は、2022年度のCOC継続事業において実施した各種活動とその成果をまとめたものです。本報告書の内容を学内外に広く発信して、本学のCOC継続事業に関する理解を深めていただくとともに、次年度以降の地域連携教育・研究活動に活かしていきたいと考えています。今後とも、これまでのCOC並びにCOC＋事業の経験と成果を踏まえて、大学独自の「地（知）の拠点事業」をCOC継続事業として推進し、その人材育成目標及び地域貢献目標を確実に達成すべく努力を重ねていく所存です。学内外の多くの方々には引き続きご支援・ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月

中部大学 国際・地域戦略部門地域連携センター

センター長 櫻井 誠

目次

はじめに

1. 概要

(1) 目的・目標・概要図	1
(2) 実施体制・メンバー表	7

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果	9
(2) ワーキンググループ報告	
① 正課教育WG	27
② 生活・住環境を考えるまちづくりWG	30
③ 世代間交流プログラムWG	45
(3) その他プロジェクト活動報告	
① PBLゼミ	51
② C O C + 参加大学共通プログラム「サマースクールin美濃」	82

3. 新聞記事	91
---------	----

1. 概要

(1) -1 目的

中部大学（以下本学）が採択された文部科学省「地（知）の拠点整備事業」：『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業（以下本事業）』は2018年3月に5年計画の事業を終了したが、2018年度からは、当初設定された事業目的を継承しつつ、活動を整理統合しながら中部大学独自の事業として継続している。

本事業は初年度の報告書にも述べられているように本学が「地域課題の解決」および「地域に役立つ人材養成」を目的とする地域再生・発展のための地（知）の拠点となるための大学改革事業である。またその改革の成果を地域社会に還元し、地域社会に貢献していくことを目的としている。

本学はその基本理念として、『不言実行、あてになる人間』を信条とし、豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される人間を育成するとともに、優れた研究成果をあげ、保有する知的・物的資源を広く提供することにより、社会の発展に貢献する。」こととしており、その社会貢献上の使命として、「さまざまな社会活動に参画し、大学が保有する知的・物的資源を活用することによって、地域を中心とする社会の福利向上と発展に貢献する」ことを学内外に明確にしており、地域貢献・地域連携は本来、本学の使命でもある。

すなわち本学は建学の精神「あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として本事業を遂行しており、社会・産業界の中で地域にも目を向けて「行動できる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「頑張れる人間」「信頼できる人間」としての学生育成を目指している。本学はこの事業を通してさらに一層地方大学の社会的使命を探究し、持続可能な未来社会の創造とその教育のあり方を力強く追求する。

I. 全体としての目的

本事業全体の目的をさらに具体的に述べれば、地域にも目を向けて地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指し、現代社会の主役である高齢者にとって安心・安全で豊かな社会づくり、まちづくりを地域に展開する。その成果を地域に還元し、都市づくりを進める。さらに、その成果と知識を広く日本社会全体に拡大することで日本の発展に貢献していく。こうした実践活動を学生自身が担っていくことで、学生自身が実践的知識を深め、支援技術を学び、前述の地域であてになる人材に育っていく。

II. 教育上の目的

地域社会の再構築のために必要な実践的人材の育成を目指す。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

現在まで進めてきた教育改革をさらに発展させ、地域社会に役立つ人間となるための行動計画を持てるよう、全学共通教育の科目として『地域共生実践』を設置し、学部・学科にも地域志向関連科目を設置した。こうして基礎教育と専門教育を交互に発展的

に教育し、地域社会再構築のために必要な実践的人材を育成するための教育改革を目的とする。さらに最終的に中部大学が認定する“あてになる人間＝『地域創成メディエーター』”の育成を目的とする。

②「地域連携プログラム」

春日井商工会議所と連携協定を締結し、単なる就労ではなく、人材育成プログラムとして意識的に学生を教育する報酬型インターンシップ型の就労システムを構築した。また、「高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化」といった地域貢献活動においても学生を社会貢献の実践的に参加させ、高齢者・地域住民と交流させることで、高齢化社会の地域課題を理解し、積極的に課題解決策を考える能力を涵養することも目的としている。

③「生活・住環境を考えるまちづくり事業」では学生を研究活動に参加させることで、地域の課題を解決していく能力の育成に資することも目的となっている。

④「世代間交流プログラム」では地域での高齢者問題を身近に感じることから、問題解決能力の育成を目指した。

⑤「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）」は地域に開かれた大学として社会人向けに学びの場を提供している。学生にとっては、授業をサポートすることで異なる世代との交流を通し様々な学びが得られることから、CAAC受講生と学生の双方にとっての「共育」の場となることを目指している。

Ⅲ. 研究上の目的

地域活性化の課題研究として以下の研究の推進を目的とする。

①「生活・住環境を考えるまちづくり事業」

春日井市を始めとしたまちづくりの課題解決に協働し、地域の住民が安心して快適な生活を送れるようになることを目的に社会基盤の整備、地域環境の改善に関する開発研究を行う。

②その他社会貢献活動関連研究

「世代間交流プログラム」や「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）」の開設などの社会貢献に関連しながら、地域の課題をさまざまな観点から調査研究し、地域活性化と高齢者支援の手段を見いだしていくことを目的とした研究活動も並行して行う。

Ⅳ. 社会貢献上の目的

改革の成果を春日井を中心とした地域に還元し、地域の再生・活性化を支援するため、以下の地域社会貢献を目的とする。

①「地域連携教育改革・教育システムの構築」

地域に役立つ人材を教育機関として養成し地域に送り出すことで社会に貢献する。地域の課題を現実的に理解し、解決のために行動を起こすことができる“あてになる人材”を養成する。そして地域のコミュニティ活動の中心人物であり、リーダーとなる

ことのできる知識と問題解決能力を持ち、良好な対人関係を維持できる人材を地域に送り出す。これは教育機関として重要な社会貢献活動である。さらに本事業では、地域の課題克服のための解決策を中部大学が軸となって展開し、現代社会の最重要課題である高齢化社会の課題解決に挑戦する。

② 「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）」

社会人の学び直しや健康づくりを目的とした教育を行う。

（1）-2 目標

COC及びCOC+については、それぞれ、2017年度と2019年度に文部科学省補助金事業は終了し、2020年度よりCOCの目的の継続並びにCOC+の理念の融合を鑑みて活動中である。また、活動テーマのうち、シニア大学が中部大学アクティブアゲインカレッジとして2021年度から独立した。今年度の目標はそれらを鑑みて以下のように設定した。

I. 全体

①COC推進委員会委員とワーキンググループの統合・再編

各事業活動リーダー・副リーダーおよび各学部代表委員からなるCOC推進委員会の機能を維持し、活動内容に応じてワーキンググループを一部、統合・再編し（実施体制・メンバー表参照）、本事業全体の推進にあたる。

②地域創成メディエーターの育成

平成27年度までの立ち上げ期間から、平成28年度以降、具体的アクションプランを本格的に実施して地域創成メディエーターの育成に取り組んでおり、今年度も引き続き地域創成メディエーターの輩出を図る。なお、COC+で輩出していた地域活性化リーダーについては、地域創成メディエーターへの統合を図り、2021年度を以て資格認定を終了した。

③内部評価委員会の開催

学長を委員長とする学部長・研究科長会のメンバーに春日井市をオブザーバーに加えて内部評価委員会を開催し、事業活動の報告とそれに基づいて評価を受ける。

II. 教育

教育活動としては地域連携教育の推進と報酬型インターンシップの確立を目指す。

①地域連携教育改革を実施し、教育システムの構築

- 1) 地域共生実践の春学期2講義・秋学期3講義、並列開講の運営。担当教員・協力者の勧誘と増員。
- 2) 地域創成メディエーターへの導き。
- 3) 地域創成メディエーター学生発表会（+エクスプレッション）を開催し、地域創成メディエーターをルーブリック評価に基づき認定する。

②報酬型インターンシップ制度の維持・発展

- 1) 春日井商工会議所との連携強化。
- 2) 学生への説明会の開催。

③体験型学習の推進

- 1) PBLゼミの実施。
- 2) COC+参加5大学共通プログラム「サマースクール」への参画。

Ⅲ. 研究

研究活動として高蔵寺ニュータウンを中心としたまちづくり活動を展開し、生活・住環境を考えるまちづくりを推進する。

- ①春日井市等のまちづくりの課題解決に協働し、地域住民が安心快適な生活を送れるようになることを主な目的として、社会基盤の整備、地域環境の改善に関する活動を行う。
 - 1) 「まちづくり」の意義と参加方法について学ぶ機会をつくる。
 - 2) まちづくり勉強会（学内）、タウンウォッチング（学外）、地域の自然環境調査（学外）等を実施する。
 - 3) 正課並びに自主活動を強化する。

Ⅳ. 社会貢献

高齢者・学生の交流活動を実施し、社会貢献活動として高蔵寺ニュータウンのキャンパスタウン化の各活動を軌道に乗せ、世代間交流プログラムを推進する。

- ①高齢者の健康寿命延伸や生活支援を目的に、若者による高齢者との交流を実践する。
 - 1) KCGサークル（地域発の健康教室）等の高齢者向けの健康に関する活動の実施。
 - 2) 様々な活動を通しての高齢者とのコミュニケーションの実施。

(1) -3 文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（2013（平成25）年度～2017（平成29）年度） 「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」概要図

春日井市の知の拠点＝**中部大学**

学部：7学部（29学科）、大学院：6研究科
学生数：約10000人、教員数：約500人

地域の方々や学生、地域と大学がキャンパスの壁を越えて融合し、持続可能な新しい未来社会とその教育を春日井の地に実現する。

中部大学は平成26年に開学50周年を迎える。中部大学ならやれる！中部大学が成功させる！

正課教育

正課教育との連携に基づいた課外教育

“らせん”構造
複合的学修システム

地域との関わり体験を通して他者を理解し、自身の価値観をみつめる

要請・課題・ニーズ

春日井市

自治体

市民

地域

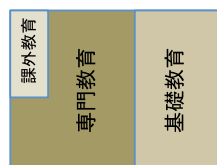
企業

学校
(小・中・高)

その他

教育プログラム体系の新展開

従来の構成



本プログラムでは、全学共通教育科目に『地域共生実践』（2単位）を新設する。さらに学部・学科において、地域連携に関する科目・演習等を設置する。

本プログラム推定参加学生数：
25年度：約50名、26年度：約80名
27年度：約400名
28年度：約600名
29年度：約800名
(以降、順次増加する。)

学内の実施体制

学長主導の基、COC担当理事(兼)副学長を置き、本取組みを統括し、推進する。

中部大学のCOCとしての目標

- “地域”と言う名のシャワー（刺激）で学生を育てる。
- 地域だけで解決できない課題を、大学の持つシーズを活かして、地域と協働で取り組む。
- “まちづくり”の不可欠な資源が次代を担う若者である。この意識を高め、地域と共に育てる。
- 地域において優しい心配りができる、真のリーダー養成を目指す。
- 地域からあてにされる大学を目指す。
- 地域連携において、春日井モデルを明確にし、このモデルを全国に伝える。

＜教育改革＞

中部大学では、平成20年度以降大幅な教育改革を進めてきた。本事業では、更なる教育改革として、全学共通教育及び学部の正課の地域関連科目を導入した『新しい教育課程』を実施する。さらに、全学総合教育科を発展的改組し、『全学総合COC教育科』を新たにスタートさせる計画である。

- ・持続可能な日本社会を創造するために有用な新しい教育構造を提示できる
- ・情報共有システムに必要な技術を開発することができる
- ・調査した技術を開発することができる
- ・老若男女が同一の環境で学ぶ場を提供できる
- ・学生本人が人生プランを創造することができる

創造

地域創成メディアター
におけるアウトカムの例

自立

協働

創造

- ・社会人としての考え方や能力を伸ばすことができる
- ・一人一人が多様な個性・能力を伸ばすことができる
- ・対人関係形成能力を改善し自立心を養うことができる
- ・世代間交流により知的にも道徳的にも成長することができる
- ・地域貢献することにより目的意識や学習意欲を高めることができる
- ・世代を超え、相互に切磋琢磨し、いたわりの心と自立心を養う事ができる
- ・地域特有の課題を見つつけ出しその解決策を考える能力を伸ばす事ができる

協力・提案・シーズ

(注)2013年申請書類より抜粋

(1) -3 2020年度以降 COC継続事業概要図

中部大学における地域発展に貢献する人材の育成（2020年度以降）

【専門分野の学習】

～地域の課題を発見し、
解決の一步を踏み出す人材になろう～

COC（春日井市ほか）

学ぶ【10単位以上】+動く【1企画以上】年間100名程度
全学科対象

地域創成メデイエーター（学長名）認定

地域創成メデイエーター発表会・審査会

報酬型インターンシップ

生活・住環境を考えるまちづくり

コミュニティ情報ネットワーク

世代間交流プログラム

地域連携住居

シニア大学（CAAC）

その他
（ゼミ単位等のフィールド活動）

動く（課外）

1個以上の参加

学ぶ（正課）10単位以上

①見る ②聞く

④活躍する

③挑戦する

～『あてになる人間』具現化プロセス～

～地域（ふるさと）の良さを知り、
活躍できる人材として地域（ふるさと）に還ろう～

COC+（岐阜県）

学ぶ【3単位以上】+動く【5企画以上】年間15-20名程度 全学科対象

**COCと産業界ニーズへ振分け
地域活性化リーダーは地域創成メデイエーターと統合**

企業現場教育（岐阜県）は、産業界ニーズと統合

サマースクールは、COC「動く」へ移行

フィールド活動@ぎふは、専門分野の学習のため、
COC「動く」へ移行

PBL@ぎふゼミは、地域や周囲に関わっていくための
力を身に付けることができる体験型学習のため、
COC「学ぶ」へ移行

COC+でのリスク予防管理士指定科目は、
産業界ニーズと統合

【キャリア教育】

～リスク管理を修得して、
21世紀型企業人になろう～

産業界ニーズ

学ぶ【3単位+1企画】+動く【1企画】
年間150名程度 指定学科対象

リスク予防管理士（学長名）認定

3・4年

・下記全てについて必修
・下記総合評価にてA以上を認定

動く（課外）

企業現場教育
（愛知県等）
指定学科（※）各1回

企業現場教育（岐阜県）

1-3年
レポート
必

学ぶ（正課2単位以上・一部課外）

リスク予防管理士指定科目
（バイオ産業リスク予防学ほか）2単位
（愛知企業等若手特別講師招聘）

2-3年
単位認定
基準
レポート
必 2

リスク予防管理士特別セミナー
（愛知企業等経営者クラス）年2回

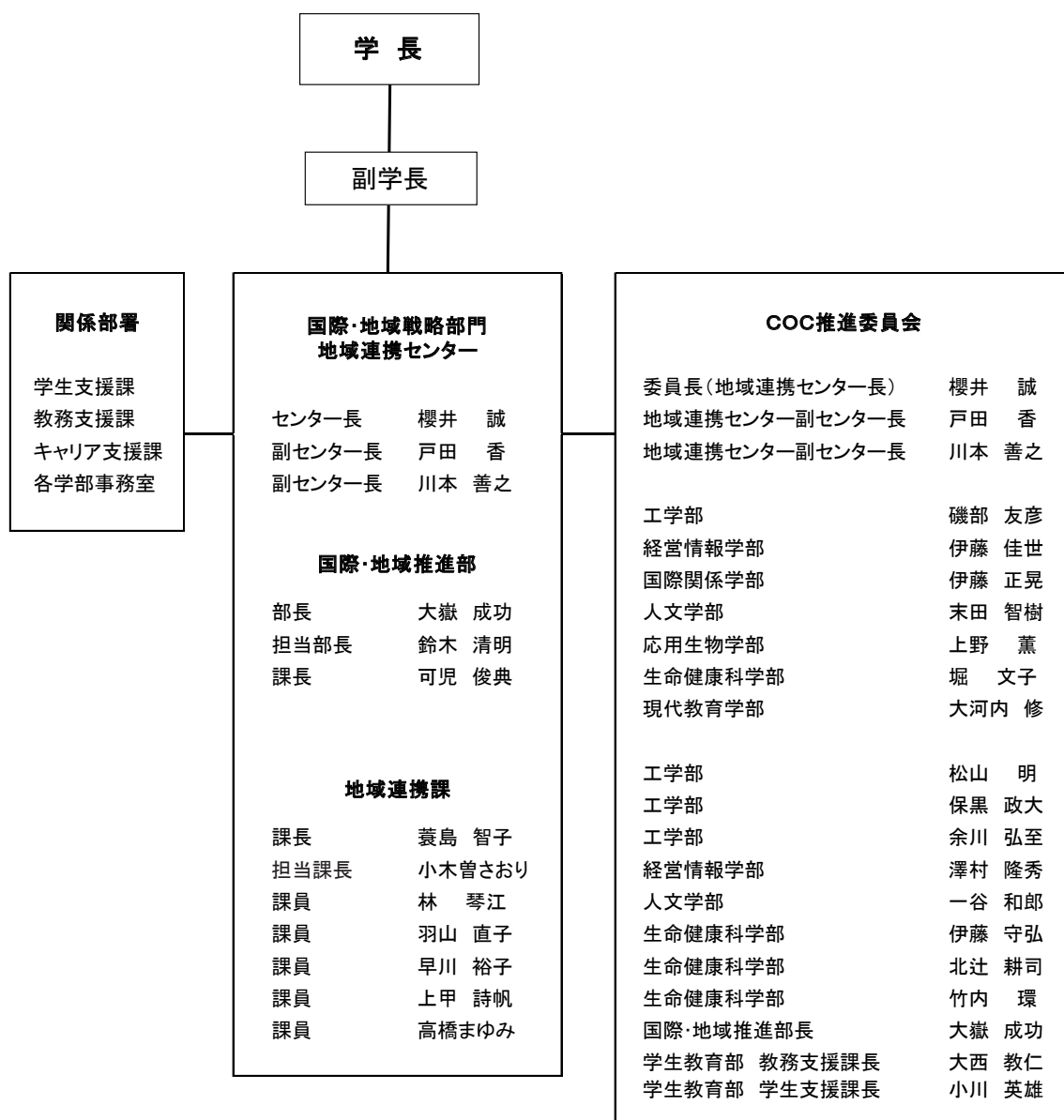
3年秋
レポート
必

(2) 実施体制・メンバー表

本事業を全学的に推進・実施するために以下のように学長を総括責任者とし、全学体制を構築。実際の事業は、全学部からの委員を含むCOC推進委員会を設置し推進にあたっている。またCOC推進委員会内に活動毎に3つのワーキンググループを設け各活動を展開し、事務部門は2019(令和元)年度から国際・地域推進部で事業全体の事務的管理にあたっている。(以下、中部大学COC継続事業体制図およびCOC・WGメンバー表参照)

2023年2月1日

中部大学COC継続事業体制図



2022年度 COC・WGメンバー (2月1日)

正課教育WG (活動番号①)

委員長	上野 薫	(応用生物学部 環境生物科学科 准教授)
副委員長	伊藤 守弘	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 教授)
委員	竹内 環	(生命健康科学部 講師)
同	山羽 基	(工学部 建築学科 教授)
同	伊藤 佳世	(経営情報学部 経営総合学科 准教授)
同	羽後 静子	(国際関係学部 国際学科 教授)
オブザーバー (事務局)	櫻井 誠 蓑島 智子	(地域連携センター長／工学部 応用化学科 教授) (国際・地域推進部 地域連携課長)

生活・住環境を考えるまちづくりWG (活動番号②)

委員長	磯部 友彦	(工学部 都市建設工学科 教授)
副委員長	松山 明	(工学部 建築学科 准教授)
委員	岡本 肇	(工学部 都市建設工学科 准教授)
同	横江 彩	(工学部 建築学科 准教授)
同	余川 弘至	(工学部 都市建設工学科 准教授)
同	上野 薫	(応用生物学部 環境生物科学科 准教授)
同	山中 由実	(応用生物学部 食品栄養科学科 助教)
同	山下紗也加	(応用生物学部 食品栄養科学科 助手)
(事務局)	蓑島 智子	(国際・地域推進部 地域連携課長)

世代間交流プログラムWG (活動番号③)

委員長	堀 文子	(生命健康科学部 保健看護学科 准教授)
副委員長	戸田 香	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
委員	野田 明子	(臨床検査技術教育・実習センター 教授)
同	伊藤 守弘	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 教授)
同	宮下 浩二	(生命健康科学部 理学療法学科 教授)
同	横手 直美	(生命健康科学部 保健看護学科 准教授)
同	尾方 寿好	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)
同	水上 健一	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 准教授)
同	北辻 耕司	(生命健康科学部 スポーツ保健医療学科 講師)
同	矢澤 浩成	(理学療法実習センター 講師)
同	谷利 美希	(生命健康科学部 作業療法学科 講師)
(事務局)	蓑島 智子	(国際・地域推進部 地域連携課長)

2. 活動報告

(1) 全体の活動成果

事業活動はCOC推進委員会ならびに活動毎のワーキンググループにより行なわれてきたが、それらに共通する課題や統括する活動は地域連携センター長を中心にCOC推進委員会等COC全体で取り組んできた。それらの成果は以下のようである。

1) 中部大学COC継続事業のスタート

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」としての5年間が終了し、2018（平成30）年度からは中部大学COC事業として再スタートをした。また、2019（令和元）年度をもって、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」（COC+）としての5年間も終了した。そのため、2020年度からは、2019年度まで6つあったWGを4つに統合して新たにCOC継続事業としてスタートした。さらに2021年度にはシニア大学が、シニアの枠を取り、広く社会人を対象とした中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC）として、新たに独立事業として展開することとなったため、今年度のCOC継続事業は3つのWGに整理統合し、正課外活動を春日井市及びその近郊地域へ拡げて活動することになった。

2) COCホームページの拡充

各ワーキンググループの活動内容を中心に適宜更新し拡充した。

3) COC推進委員会の開催

各ワーキンググループリーダーと各学部代表委員などからなるCOC推進委員会の構成員を見直した。委員は、委員長以下21名とし、COC推進委員会が各活動の報告と重要事項の審議にあたった。

4) 地域創成メディエーターの育成

2015（平成27）年度までの立ち上げ期間を経て、2016（平成28）年度はCOC事業における地域創成メディエーターの本格的実施年度となった。以降、育成を継続し、2022（令和4）年度も前年度同様に育成に努めた。

(1) COC継続事業における地域創成メディエーターの人物像

本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」育成プログラムの重要な柱として、COC継続事業では「地域創成メディエーター」の育成を行っている。社会・産業界は、都市だけでなく「地域にも目を向けられる人材」を求めているため、「自ら行動できる人間」「考えられる人間」「自ら道を切り拓ける人間」「がんばれる人間」「信頼できる人間」「地域にも目を向けられる人間」としての学生育成を図っている。学生が地域社会に触れると「なぜ」「どうして」とこれまでの同学年の学生仲間関

係とは違う驚き等を感じ、対処法や改善策を考えると自然と「考える力」が熟成される。

(2) 地域創成メディエーター育成のための具体的アクション

以上の認識の下に、COC推進委員会、事務局が一丸となって、他部門とも密接に協力し、以下に示すような具体的なアクションプランを着実に実施して地域創成メディエーターの育成を図った。

- ① 正課外教育事業の体験を1つ以上とする。
- ② オリエンテーション時に、学生に対して地域創成メディエーター取得を促すチラシ（別紙①参照）を配布することにより周知を図った。
- ③ 推進委員は担当する正課科目の講義にて地域創成メディエーターの取得を学生に促した。
- ④ 教務支援課に依頼し、資格取得に必須となる正課科目を取得あるいは履修中の学生を学科ごとにリストアップした。
- ⑤ 各推進委員に学科毎（場合により学部）の上記リストを渡し、リストの学生に地域創成メディエーターを取得するように積極的に促した。
- ⑥ 推進委員および「動く」の活動担当者から、125名の地域創成メディエーター候補の学生を選出いただき、「動く」の課外活動のフォローアップを行った。
- ⑦ 今年度の「動く」の活動は、29活動であった。（別紙②参照）
- ⑧ キャリア教育科目（自己開拓、社会人基礎知識）において、3年生以上のみ、大学側の受講人数制限により、本人の意思とは関係なく「学ぶ（正課教育）」を履修できない希望学生には、特別課題レポートを提出させて、地域創成メディエーター資格条件の「学ぶ」をクリアとする特別措置を認めた。特別課題教育科目では、2020年度まで必修科目としていた「地域共生実践」をその他5科目と同様に選択科目の1つとし、学生が資格取得に挑戦する可能性を拡げた。

従前COC+事業において開催していた「PBLぎふゼミ」は2020年度より「PBLゼミ」に改め、2022年度もキャリア教育科目の1単位として読み替え対象とした。また、COC+参加5大学合同プログラム「サマースクール」も条件付きでキャリア教育科目の1単位として読み替え可能とした。

- ⑨ 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価で、育成する人材像を明確にした。（別紙③参照）

(3) 地域創成メディエーター取得学生の推移

立ち上げ期間の2014(平成26)年度4名及び2015(平成27)年度5名から、本格実施となった2016(平成28)年度は144名、2017(平成29)年度からはルーブリック評価に基づき「地域創成メディエーター」の資格を132名、2018(平成30)年度は108名、2019(令和元)年度は66名、2020(令和2)年度は60名、2021(令和3)年度は75名に授与した。2022(令和4)年度は59名の学生に授与できる運びとなっている。

また、発展的に統合したCOC+事業における認定資格の地域活性化リーダーの取得については、単位取得中だった学生について継続的にフォローを行い、2020(令和2)年度は3名に授与した。2021(令和3)年度は資格認定者はおらず、地域活性化リーダーの資格認定は終了した。

2023(令和5)年度以降も引き続き地域創成メディエーターの育成を進めていく予定である。

5) 地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」開催(別紙④参照)

2月16日(木)本学不言実行館アクティブホールとスチューデント・コモンズにおいて、中部大学地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」を開催した。

地域創成メディエーター資格認定の最終課題「+エクスプレッション」は、講義での規定単位取得に加え、キャンパスを地域に広げた課題体験に参加・実践した学生たちが、まちの再生や地域活性化などの特有の課題に地域と協働して現場で解決策を考えて取り組んだ過程と成果を発表。口頭発表4名、ポスター発表55名の学生が地域創成メディエーター候補生となった。参加者は、一般市民11名、教職員49名、学生5名が来場した。

参加者にアンケートを依頼し、20名から回答を得た。(別紙⑤参照)

なお、当日、公の理由により発表が困難である学生は3月にポスター発表を行った。

6) 内部評価委員会の開催

3月2日(木)に学部長・研究科長会構成員からなる内部評価委員会が開催され、2022(令和4)年度事業活動の内部評価が行われた。オブザーバーとして春日井市にも出席いただいた。

7) ぎふCOC+事業推進コンソーシアムへの参画

岐阜大学を中心とした事業協働機関としてCOC+事業に参加した5大学(岐阜大学、中部大学、中部学院大学、日本福祉大学、名古屋学院大学)で設立されている「ぎふCOC+事業推進コンソーシアム」に引き続き参加した。

8) 採択他大学との交流と活動

(1) COC+参加大学共通プログラム「サマースクール」に参加

美濃市をフィールドに9月3日(土)、4日(日)、10日(土)の3日間にわたり、「サマースクール2022 in MINO 美濃市を翔ばせ!強みを伸ばすドローン戦略」が開催された。美濃市の活性化に向けて、美濃和紙やうだつの上がる町並み等の伝統と先端産業のドローンを活用する解決策に取り組んだ。この活動には岐阜大学をはじめとするCOC+参加の5大学より25名の学生が参加した(本学からは8名の学生が参加した)。優秀な提案をしたチームには、美濃市から市長賞、株式会社ROBOZ

から社長賞が贈られ、本学学生のチームもそれぞれ表彰された。

(2) 「全国学生交流会」に参加

岐阜大学と金沢工業大学を幹事校として、COC事業・COC+事業関係大学をはじめ、地域をフィールドにした地域志向に取り組んでいる全国の大学・高等専門学校が互いに活動の様子や成果を発表する「全国学生交流会」が3月1日(水)にオンライン開催された。本学からは、人文学部コミュニケーション学科のグループが「こまきこども未来館大型壁面演出プロジェクトを通しての地域貢献」と題した発表を行った。

別紙① 地域創成メディエーター チラシ


 文部科学省
地(知)の拠点

中部大学 学長認定資格

まだまだ

間に合う!!

いつからでも
気軽にチャレンジ可能!
気になったら
まずは、事務局へGO!!



就活を有利に!

免許・資格欄を
充実させたいなら!

地域創成メディエーター

地域が、キミのキャンパス。

中部大学 地域連携センター
キャンパスプラザ 2階

Phone.0568-51-9872 e-mail:coc@office.chubu.ac.jp
https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/

「地域創成メディエーター」資格とは、在学中から社会経験を積み、
社会で生きる力を身につける、中部大学式「人材育成体験プログラム」。
地域の人々と共に地域のさまざまな問題解決への取り組みを経て
「行動できる人」「自ら道を切り拓く人」「頑張れる人」「信頼できる人」として
中部大学が自信を持って認定し、推薦できる学生の証です。

ADVANTAGE 1

専門性が
より高まる

ADVANTAGE 2

直接就職に
結びつく
可能性がある

ADVANTAGE 3

職業の適性が
わかる

ADVANTAGE 4

就活時の
アピール
ポイントになる

ADVANTAGE 5

コミュニケーション
思考力が
高まる

ADVANTAGE 6

幅広い
価値観が
学べる

ADVANTAGE 7

学部学科を
超えた
仲間ができる

「地域創成メディエーター」の資格取得は、
地域と社会に選ばれるために必要な **実践力・応用力・人間力** を養うために役立ちます。

Step.1

単位取得 & 課題設定

規定単位を取得し、審査基準をクリアした人に、学長認定の資格が授与されます。

学ぶ

授業で
知識を習得
正課

A の科目から1単位以上、
B～C科目から各2単位以上、合計10単位以上 必須

自立した社会人として地域の人々に関わるために、
地域社会の多様な背景を知り、専門的な知識を身につけよう。

A キャリア教育科目

「自己開拓」

グループワークによる実習。協同作業を通じて自分をより深く知ることができます。

「社会人基礎知識」

自分の適性に合う職種や企業を選ぶための基礎的な知識を習得します。

B 特別課題教育科目

「地域共生実践」

「持続学のすすめ」

「地域の防災と安全」

「地球を顧る」「人類と資源」

「グローバル環境論」

C 地域関連科目

メディエーター資格取得の動機や
地域の理解に役立つ科目を自由選択

選択した科目で会得した知識が、地域課題へどう繋がったか、「関連」や「動機」、「成果」を表現できればOKです。

※地域関連科目の詳細は事務局まで

年1回開催 PBLゼミ

実社会に対応するリアルな問題に対峙する課題解決型学習 (Project Based Learning) で仕事に必要な共同作業の能力を養い、実践的思考を鍛えます。

★「学ぶ」Aキャリア教育科目の1単位に読み替え可能

5大学共通プログラム

年1回開催 サマースクール

地(知)の拠点事業に参画する他大学の学生と一緒に、地域の方々の話を聞き理解を深め、実際の課題に対して提案を行うことにより、今後のキャリアの選択肢を広げることを目指します。

★本活動は「動く」の活動の一つですが、本活動のほかに別の「動く」の活動にも参加・実践した場合に限り、「学ぶ」Aキャリア教育科目の1単位に読み替え可能

動く

課外体験に
参加・実践
課外

1プロジェクト以上に参加 必須

キャンパスを地域に広げて、まちの再生や地域活性化など、
特有の課題に取り組む現場で解決策を考えて実践にあたります。

▼プロジェクト活動の一例 ※そのほかさまざまな活動が計画されています。プロジェクトの詳細は事務局まで

高齢者との交流

- CAACの講義を補助
- 世代間交流会への参加
- 高齢者施設での音楽ボランティア

イベントの運営を通して地域貢献

- 高校の体育系部活の運営補助
- 障害者スポーツのすすめ
- 天文台のイベント運営補助

地域のまちを知るまちづくりを考える

- 高蔵寺ニュータウン地域連携住居への入居と地域交流イベント参加
- 森の健康診断
- サマースクール

技術を身につけながら地域貢献

- 報酬型インターンシップ
- イベントでの救護ボランティア活動
- 地域の健康教室の活動支援

Step.2

資格申請

申請は手続きカンタン

申請書はパソコンでダウンロード! 必要内容を書き込み、単位証明書を添付して申し込むだけ。

いつでも教職員が全面サポート!

メディエーター資格取得は自主性・自発性を大切にしていますが、困ったときや分からないことは何でも相談を。ヒントやアドバイスをします。

Step.3

成果発表

PLUS エクスプレッション

資格取得の最後の課題がこの発表会。キャンパス内外を交えた審査員の前で、自身で設けた課題への取り組みと、その成果をプレゼンテーションします。自分自身の成長ぶりをしっかりアピールするのがポイントです。

課題への
取り組みと
成果

自分の変化
気づき
成長

会得した力を
今後どう
活かすか

審査

学長認定

地域創成 メディエーター 誕生

中部大学の建学の精神、「あてになる人間」=地域創成メディエーターに見事、認定された学生には、認定証が贈られます。資格取得までの道のりが社会で生きる力となり、その達成感は「自分ではやる」という自信につながるハズ!

この資格は一度認定されれば終了ではありません。新たな挑戦を続け、自分をどんどん育てましょう!

いつでも
何度でも
チャレンジ
できます



中部大学

地域連携センター キャンパスプラザ 2階 TEL.0568-51-9872

e-mail:coc@office.chubu.ac.jp https://www3.chubu.ac.jp/innovation_mediator/



別紙② 2022年度 地域創成メディエーター「動く」の活動

2022年度 地域創成メディエーター「動く」の活動 (29件)

No	活動名称	担当教職員		WG名	WGリーダー名	SDGsの17の目標
1	新・森の健康診断	環境生物科学科	上野薫	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	15, 12, 11
2	春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズ への参加	建築学科	松山明	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 9, 4
3	高蔵寺ニュータウン定点観測	都市建設工学科	磯部友彦	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11
4	健康救急フェスティバル	食品栄養科学科	宮田茂 矢野智奈美	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 4
5	子育てすくすく育て隊	幼児教育学科	多治見里美 塩之谷真弓	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 4
6	春日井市における産地直売所を介した地域活性 化への取組み	食品栄養科学科	山下紗也加 小林由実 小川宣子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 12
7-1	(学科対象) 水害に対する地域住民の防災意識向 上プロジェクト	都市建設工学科	武田誠 尾花まき子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 13, 17, 4
7-2	(全学科対象) 春日井まつり 水害に対する地域 住民の防災意識向上プロジェクト	都市建設工学科	武田誠 尾花まき子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 13, 17, 4
8	学生主体の標準化教育	経営総合学科	伊藤佳世	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	1～17
9	星空ネットワーク	ロボット理工学科 創造理工学実験教育科	高丸尚教 大嶋晃敏	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	4
10	岐阜県東濃地区の食文化の伝承	食品栄養科学科	山下紗也加 小林由実 小川宣子	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	3, 4, 11, 12
11	こまき子ども未来館プロジェクトマップ 制作 @MIR	コミュニケーション学科	柳谷啓子 柊 和佑	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	4ほか (コンテンツに応じて変化)
12	アスコンについて「考動、未来につなぐ・残 す」	都市建設工学科	余川弘至	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 12
13	多学科協同による乳児と母親に対する「子育て セミナー」	保健看護学科	横手直美	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
14	高校の体育系部活動でのケガ予防講習会 運営 補助	理学療法学科	宮下浩二	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
15	障がい者スポーツのすすめ	生命医科学科	伊藤守弘	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
16	<LHV (ラビング・ホーム・ビジット) への参加> 健康寿命延伸のための快眠・運動教室	臨床検査技術教育・実習センター	野田明子	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 11
17	<世代間交流会への参加> 体力測定会	理学療法学科	戸田香	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3
18	<世代間交流会への参加> 福祉用具体験セミナー	保健看護学科	堀文子	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3
19	KCGサークルでの健康教室指導	理学療法実習センター	矢澤浩成	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 5, 11
20	地域イベントに対するボランティア活動(救 護・消防団)	スポーツ保健医療学科	北辻耕司	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 17
21	地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活 性化への取組み	スポーツ保健医療学科	尾方寿好	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
22	アクティブシニアとの交流活動	作業療法学科	谷利美希	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4
23	CAAC講義の補助(健康増進実習など)	スポーツ保健医療学科	水上健一	③世代間交流プロ グラム WG	生命健康科学部 保健看護学科 堀文子	3, 4, 10, 11, 16
24	報酬型インターンシップ	学生支援課	角谷亮 白土雅貴	④全体	地域連携センター 副センター長 戸田香	4, 8
25	臨床実践プログラム	臨床工学科	武田明	④全体	地域連携センター 副センター長 戸田香	4, 8
26	地域連携住居 KNT創生サポーターズ(CU+) ※UR居住者の のみ	学生支援課	殿垣博之 唐木純也	④全体	地域連携センター 副センター長 戸田香	11
27	ボランティア・NPOセンター	学生支援課	殿垣博之 唐木純也	④全体	地域連携センター 副センター長 戸田香	11, 14, 15
28	サマースクール	地域連携センター	戸田香	④全体	地域連携センター 副センター長 戸田香	9, 11
29	小牧市東部まちづくりワークショップ ※活動未定(小牧市からの要請があれば実施)	都市建設工学科	磯部友彦	②生活・住環境を考 えるまちづくりWG	工学部 都市建設工学科 磯部友彦	11, 17, 9

別紙② SDGs の 17 の目標

SDGsの17の目標

目標1 (貧困)		あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標2 (飢餓)		飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 (保健)		あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 (教育)		すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
目標5 (ジェンダー)		ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワメントを行う。
目標6 (水・衛生)		すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
目標7 (エネルギー)		すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する。
目標8 (経済成長と雇用)		包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク(適切な雇用)を促進する。
目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)		レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る。
目標10 (不平等)		各国内および各国間の不平等を是正する。
目標11 (持続可能な都市)		包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する。
目標12 (持続可能な生産と消費)		持続可能な生産消費形態を確保する。
目標13 (気候変動)		気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
目標14 (海洋資源)		持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する。
目標15 (陸上資源)		陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の防止・防止及び生物多様性の損失の防止を促進する。
目標16 (平和)		持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る。
目標17 (実施手段)		持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

※内閣府地方創生推進事務局「地方創生に向けた自治体SDGsの推進について」を抜粋

別紙③ ルーブリック評価〈A-2表〉

〈A-2表〉

中部大学地域創成ディエーター資格申請 ルーブリック(A-2) 【動くの活動責任者(推薦者)が記入して下さい。申請書A-1表に添付の上、提出下さい。】

【ルーブリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いします。】

被推薦者氏名		学籍番号		推薦者(教職員)		所属:		氏名:		⑥		
認定活動名称												
到達目標	区分	小区分	活動番号	大項目	A(3点)	B(2点)	C(3点)	D(2点)	E(4点)	F(6点)	点数	
【学ぶ】 1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域の取り組みに主体的かつ継続的に仲間と協力し参加することができる。またその活動に意欲を見出すことができる。 2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にとることができる。自分の担当内容について責任をもって成し遂げることができ、そのためのPOCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。 3) 地域の取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にとることができる。自分の担当内容について責任をもって成し遂げることができ、そのためのPOCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。 4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 5) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 6) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 7) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 8) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 9) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 10) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 11) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、 12) 自分たちの専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、	1	合計10単位の整合性がとれている	3	十分整合性がとれている								
	2	自由選択の「地域関連科目」が活動(「動く」)に関連している	3	十分関連している								
	3	自由選択の「地域関連科目」の本来の意義や目的が理解できる	3	十分理解している								
	4	自分にとっての「関連科目」の意義が整理できる	3	十分整理されている								
	5	他者との関わりを学び、実践できる	3	十分実践できる								
	6	自分と社会の関係について、自分の考えを述べ、それを人に説明できる	3	十分説明できる								
	7	組織を活性化させる力が身に付いている	3	十分身に付いている								
	8	"持続可能な社会"のために必要なものごとくを考える力が身に付いている	3	十分身に付いている								
	9	考え方や価値観を異にする人々との対話に要するコミュニケーション能力が身に付いている	3	十分身に付いている								
	10	合意形成のために重要な行動が理解できる	3	十分理解している								
	活動状況	「動く」	1	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる							
	2	十分な量の活動ができる	1	3	行動に関して、運送や関連する活動がほとんどなく、確実に実施することができ							
3	十分な量の活動ができる	1	3	申請者に期待される活動量の6割程度は参加することができる								
4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができ、		3	自分の仕事はチーム、チーム全体のどんな仕事でも嫌がらずに、率先で行うことができる。約束を守り遂行をかけることはできない									
5	主体的に活動に参加できる	1	5	指導がなくても、積極的に活動に参加することができる								
6	解決すべき課題が理解できる	1	5	指導があれば、必要な内容の7割程度は他者に明確に伝えることができる								
7	課題解決のためにクリエイティブなアイデアを生み出すことができる	3	指導がなくても、適切な情報の収集およびそれに基づき客観的な判断を十分に実行することができる									
8	プロジェクトにおける自分の役割が説明できる	2	3	指導があれば、十分な内容を他者に明確に伝えることができる								
9	チーム活動における自分の特性を理解し、チームに貢献できる	3) 4)	3	自力で自分の特性を把握し、他者に伝えることができる。活動にもそれを活かす努力をしている								
10	自分の専門性を活かして、新しい視点から自分たちの意見や提案をすることができる	4)	3	自ら、自分の専門分野に関する情報収集を行った。新しい意見や提案を述べることができる								
11	POCAサイクルを理解し、実行できる	2)	3	自ら、POCAサイクルを理解し、サイクルを回しながら活動をよりよく進めることができる								
12	報告・連絡・相談(ホウレンソウ)を理解し、実行できる	2)	3	指導があれば、報告・連絡・相談がスムーズに行われる								
推薦理由					小計点 [70点満点]		配分考慮後の合計点(0点~4.5/35点満点)					

別紙③ ループリック評価〈B表〉

＜B表＞

中郡大学地域創成メディアセンター資格申請 ループリック(B) 【発表指導責任者が申請後から発表会4日前までに記入し提出ください。】
【ループリックは、学生に見せて、この項目で評価されることを伝えて頂きますようお願いいたします。】

被指導者氏名		学籍番号		氏名： ④										
認定活動名称				発表指導責任者 所属：										
実施目標	区分	小区分	週し番号	大項目	評価項目	3点 5点	A(5点)	A(3点)	B(4点)	B(2点)		C(1点) E(1点)	D(0点) F(0点)	点数
1) 地域で生じている問題について理解し、解決のための地域の取り組みに主体的かつ継続的に仲間と協力し参加することができる。またその活動に意義を見出すことができる。	「動く」	内容・組織の理解	1	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	1)	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			2	参加したプロジェクトの活動目的が理解できる	1)	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			3	参加したプロジェクトの運営経緯(フレームワーク)と関係者(対象者)について理解できる	1)	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			4	参加したプロジェクトの成果について理解できる	3	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			5	参加したプロジェクトにおける今後の課題が理解できる	3	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			6	プロジェクトに参加したことによる自分の成長が説明できる	1)	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			7	プロジェクトに参加した自分に対する課題が説明できる	1)	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
2) 取り組みに係る様々な主体とコミュニケーションを円滑にすることができ、自ら円滑にすることができ、自らの担当内容について責任をもつて成し遂げることができる。そのためのPDCAサイクル、報告・連絡・相談を滞りなく実施することができる。		活動後の反省・成長	8	チーム活動における自分の特性を理解し、今後の活動に活かすことができる	3)	5	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	指導がなくても、自分の特性を十分に理解し、今後の活動に活かすことができる	
			9	成果を生むために重要なチームや個人としての在り方や考え方について説明できる	1)	3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
			10	「地域創成メディアセンター」資格の目的や意義について理解できる		3	指導がなくても、十分な内容を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	若干の指導をすれば、必要な内容の7割程度を他者に明確に伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる	詳細な指導をすれば、必要な内容の5割程度は伝えることができる
3) 地域の取り組みに係ることで、自己理解を深め、自己啓発を進め、キャリア設計を再構築することができる。			1	プレゼンに必要な資料収集ができる		3	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる	十分な資料を集められる
			2	プレゼン内容の方向性を考えることができる		3	自らが考えて工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる	指導があれば、工夫・改善が見られる
			3	プレゼン内容を総合的に理解できる		3	十分に理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる	ある程度は理解できる
4) 自分の専門性と特性を活かし、新しい視点からの意見や提案をすることができる。			4	プレゼン内容を通して、大学での自らの成長や課題を客観的に整理できる		3	十分に成長がみられ、課題について整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる	課題については整理できる
			5	プレゼン内容を通して、将来自分が貢献したい「地域」における「活動」を語るることができる		3	具体的な活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語るることができる	ある程度の活動内容を語ることができる	ある程度の活動内容を語ることができる
				プレゼン準備										合計点 (47/50点)

別紙③ ルーブリック評価〈C表〉

〈C表〉

中部大学地域創成メディエーター資格申請 ルーブリック(C) 【発表会当日に評価員が記入】

被評価者氏名		学籍番号	
--------	--	------	--

評価委員	所属:	氏名:	Ⓔ
------	-----	-----	---

区分	大項目	チェック	得点	小項目
プレゼン 当日	プレゼン内容が分かりやすい		A(3点)	内容が簡潔にまとめられていて理解しやすい
			B(2点)	内容は簡潔にまとめられているが、理解しづらい部分がある
			C(1点)	内容が簡潔にまとめられていないか、量が少なすぎるため、理解できない
			D(0点)	明らかに発表内容として不十分である
	プレゼン資料が見やすい		A(3点)	十分に工夫されていて分かりやすく、また効果的である
			B(2点)	工夫が少なく簡素ではあるが、理解できる
			C(1点)	資料不足あるいはまとめきれておらず、理解しづらい部分がある
			D(0点)	明らかに資料作成が不足していて、理解できない
	声の大きさが適切で、 身振りも使ってプレゼンができる		A(3点)	聞き取りやすい声で、身振りも使って発表ができる
			B(2点)	聞き取りやすい声ではあるが、身振りが少なく淡々と発表している
			C(1点)	声は大きい、早口で聞き取りづらい
			D(0点)	声が小さく、身振りも少なく、発表内容が分かりづらい
	プレゼンにふさわしい服装や姿勢、 視線、言葉遣いができる		A(3点)	いずれもふさわしいものである
			B(2点)	姿勢が悪く、下を向いているなど視線が定まっていない
			C(1点)	言葉遣いが悪く、言い直しが多い
			D(0点)	いずれもプレゼンにふさわしいものではない
	プレゼン内容に対しての 質疑応答ができる		A(3点)	質問に対して適切に答えることができる
			B(2点)	質問に対して時間は必要だが、答えることができる
			C(1点)	質問に対して適切に答えられない
			D(0点)	質問に対して全く答えられない
	プレゼン内容を通して、 今後の自分のキャリア設計を 伝えることができる		A(3点)	具体的な内容を伝えることができる
			B(2点)	曖昧な部分もあるが、ある程度は伝えることができる
			C(1点)	キャリア設計と思われる内容はあるが、伝えられない
			D(0点)	キャリア設計と思われる内容がない
				合計点 [18点満点]

別紙④ 地域創成メディエーター学生発表会



文部科学省

地(知)の拠点

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業

中部大学 第9回

「地域創成メディエーター」 学生発表会

PLUS エクスプレッション

2023 2/16(木)

14:30▶17:05 (14:00 受付開始)

中部大学不言実行館 1F アクティブホールほか

動く

学ぶ



成果発表



学長から認定証が授与され
地域創成メディエーターに
認定!

<入場無料>

地域の皆さまも
ご参加
いただけます



壇上発表と、ポスターによるエクスプレッション!
活動を通して学びと成長を自分の言葉で伝えます



中部大学

主催／中部大学 後援／春日井市

中部大学 地域創成

検索





「地域創成メディエーター」資格は、資格そのものが大切なのではなく、
その道のりこそが学生自らにとって大事なことであり、「意義」と「価値」がある「行動」です。

文部科学省 平成25年度「地(知)の拠点整備事業」選定取組
春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業
第9回「地域創成メディエーター」学生発表会

PLUS エクスプレッション

地域創成メディエーター資格とは… 地域のひとと人を結びつけるメディエーター (mediator: 媒介者) となり、春日井市をはじめ地域の様々な問題に主体性をもって取り組み、中部大学の建学の精神「不言実行・あてになる人間」を身につけた学生に認定される資格です。

プログラム

- 14:30 開会挨拶：櫻井 誠（中部大学 地域連携センター長）
- 14:35 学生によるプレゼン発表
- 15:40 学生によるポスター発表 2Fステージエリア
- 16:50 地域創成メディエーター認定証 授与式
- 17:00 閉会挨拶：戸田 香（中部大学 地域連携センター副センター長）
- 17:05 閉会

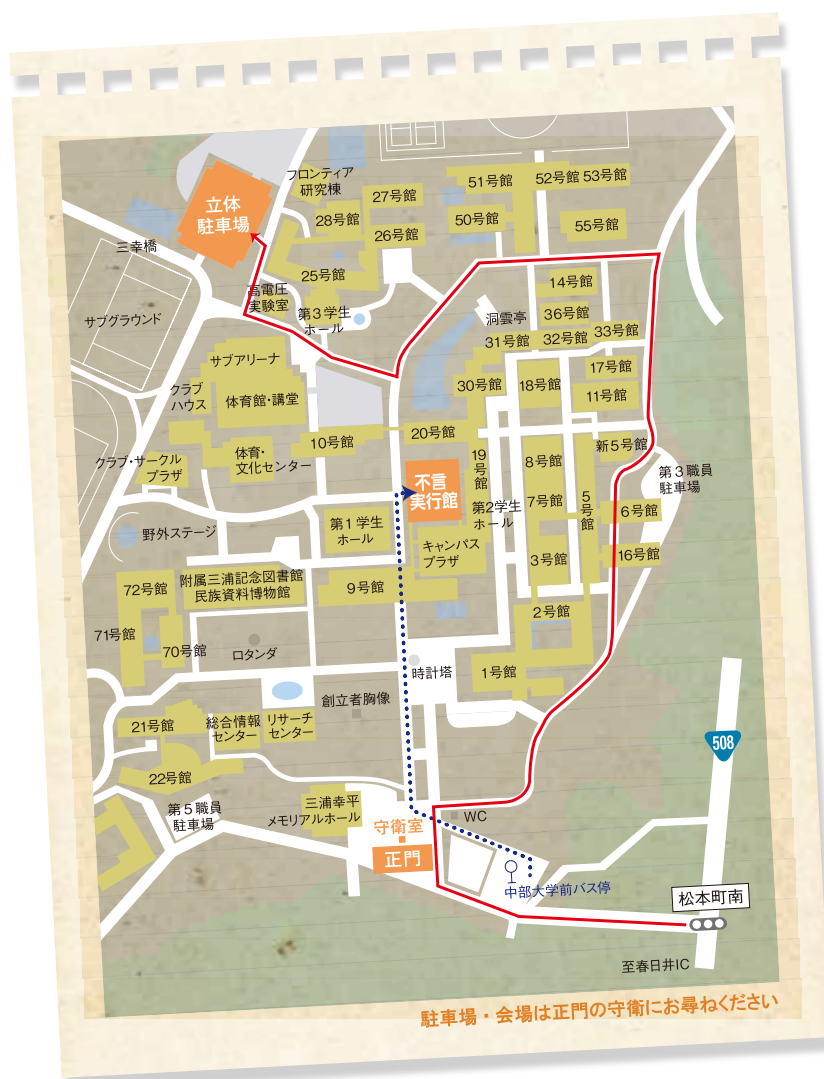
*プログラム内容は予告なく変更される場合がありますのでご了承ください

プレゼン発表

地域創成メディエーター資格に挑む学生が、これまでの知識修得と体験を振り返り、達成感や今後の課題、目標なども交え、自己成長について自らプレゼンテーションを行います。

ポスター発表

自己プレゼンテーション同様、ポスターを用いて自己成長について視覚的にPR。参加者の皆さまには学生と直接コミュニケーションをとっていただき、ご意見やアドバイスをお願いします。



中部大学へのアクセス

●JR神領駅からスクールバス

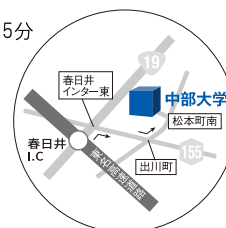
JR中央本線「神領」駅下車
JR中央本線「神領」駅下車
(名古屋駅より「普通」で約26分)、
北口「中部大学バスのりば」から
名鉄バスで約10分

●JR高蔵寺駅から名鉄バス

JR中央本線・愛知環状鉄道「高蔵寺」駅
下車(名古屋駅より「快速」で約26分)、
北口8番のりばより名鉄バス
「中部大学前」行に乗車 約10分

●お車ご利用の場合

東名高速道路
春日井ICより約5分



お申し込み締切
2/13(月)



参加お申込みは
QRコードから→

お電話・メールでも受付しております
中部大学 地域連携センター
TEL. 0568-51-1763
E-mail: coc@office.chubu.ac.jp



中部大学

お問い合わせ 中部大学地域連携センター 愛知県春日井市松本町1200

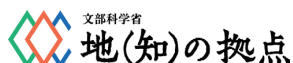
中部大学地域連携・生涯学習

検索

Web <https://www.chubu.ac.jp/community-extension/>

E-mail coc@office.chubu.ac.jp

TEL 0568-51-1763



文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC事業) (平成25年度採択)
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

第9回地域創成メディエーター学生発表会 **PLUS** エクスプレッション

日時：2023年2月16日(木曜日) 午後2時30分～午後5時05分

会場：中部大学 不言実行館 1階 アクティブホール, 2階 スチューデント・コモンズ

主催：中部大学

後援：春日井市

14時30分～14時35分 (会場:1F アクティブホール)

開会挨拶 櫻井 誠 (中部大学 地域連携センター長)

14時35分～15時20分

地域創成メディエーター紹介 上野 薫 (中部大学 応用生物学部・准教授)

学生による自己プレゼンテーション

1 「活動での自己成長 ～春日井祭りに参加して～」

河合 真誠 (工学部 都市建設工学科 3年)

2 「自分に自信をつけるには」

蟹江 偉吹 (工学部 都市建設工学科 3年)

3 「マネジメントで『成長』」

井川 宗哉 (人文学部 コミュニケーション学科 3年)

4 「歩み」

浅野 貴博 (経営情報学部 経営総合学科 3年)

<休憩・移動>

15時30分～16時30分 (会場:2F スチューデント・コモンズ)

学生によるポスター発表 ※詳細は裏面をご覧ください。

15:30～15:50 Aグループ 17名

15:50～16:10 Bグループ 17名

16:10～16:30 Cグループ 18名

<休憩・移動>

16時50分～17時00分 (会場:1F アクティブホール)

地域創成メディエーター認定証 授与式 竹内 芳美 (中部大学長)

17時00分～17時05分

閉会挨拶 戸田 香 (中部大学 地域連携センター 副センター長)

**** 中部大学 地域連携センター ****

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地

Tel: 0568-51-9872

〔第9回地域創成メディエーター学生発表会〕の様子 ～2023年2月16日(木)～



開会挨拶 櫻井誠
(中部大学教授 地域連携センター長)



学生によるプレゼンテーション 1



学生によるプレゼンテーション 2



質疑応答



ポスター発表



ポスター発表



資格認定証授与式 竹内芳美（中部大学長）



口頭発表・ポスター発表学生記念撮影

別紙⑤

第9回 中部大学 地域創成メディエーター学生発表会
PLUS エクスプレッション アンケート集計結果

開催日：2023年2月16日（木） 14：30～17：05

場所：中部大学 不言実行館 1F アクティブホール，2F スチューデント・commons

参加者数：一般11名 教職員49名 学生56名（口頭発表4名、ポスター発表代表47名含む）
計116名

回収数：20名

1. 年齢
- | | | | |
|--------------|--------------|------------|------------|
| 1. 29歳以下（1名） | 2. 30代（2名） | 3. 40代（4名） | 4. 50代（2名） |
| 5. 60代（6名） | 6. 70歳以上（5名） | | |

2. 所属

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------------|-----------|
| 1. 一般市民（3名） | 2. 教育関係機関（1名） | 3. 地方自治体（0名） | 4. 企業（0名） |
| 5. NPO・市民団体（2名） | 6. 大学教員（7名） | 7. 大学職員（5名） | |
| 8. 学生（1名） | 9. C AAC受講生（1名） | 10. エクステンションカレッジ聴講生（0名） | |
| 11. その他（0名） | | | |

3. この「地域創成メディエーター学生発表会」を何でお知りになりましたか

- | | | |
|--------------------|------------|--------------|
| 1. ホームページ（2名） | 2. チラシ（3名） | 3. 広報春日井（0名） |
| 4. 所属関係者からの案内（12名） | 5. その他（4名） | |

4. この「地域創成メディエーター学生発表会」全体のご感想をお聞かせください

- | | | |
|----------------|-------------|-----------|
| 1. とてもよかった（8名） | 2. よかった（6名） | 3. 普通（2名） |
| 4. やや不満（0名） | 5. 不満（0名） | 無回答（4名） |

5. この「学生発表会」の会場や運営はいかがでしたか

- | | | | |
|----|-------------|-------------|-----------|
| 会場 | 1. 良い（11名） | 2. やや良い（5名） | 3. 普通（2名） |
| | 4. やや悪い（0名） | 5. 悪い（0名） | 無回答（2名） |
| 運営 | 1. 良い（10名） | 2. やや良い（3名） | 3. 普通（3名） |
| | 4. やや悪い（0名） | 5. 悪い（0名） | 無回答（4名） |

6. 学生の自己プレゼンテーションを踏まえ本学教育実践に対するご意見ご感想がございましたらお聞かせください

- ・自己成長がテーマになっているが、今後、社会問題、国際問題にどう向かっていきたいかの視点があまりなかった。スキルアップが主題になっていると思った。
- ・学生さんが地域に対して、様々な課題を掲げて取りくむ姿が良かった。
- ・「あてになる人間」を育てるというポリシーはすばらしいと思います。地域にとって「あてになる人間」を送り出す拠点として引き続き期待しています。
- ・グラフを使った説明は良かった。
- ・いろいろな活動をきいて、クロスできたらいいなというものがたくさんありました。学部をこえたプロジェクトができそうですね。

- ・ 学生さん自身に目標を持って、積極的に取り組む場を提供できており、とても良い取り組みだと思っています。
- ・ 大変良いイベントですので、今後も続くことを期待します。
- ・ 自己分析をもとに、主体的な行動、結果、今後等、上手にプレゼンができていました。この後の就職先がたいへん気になります。
- ・ プレゼンがもっと楽しく見えるようになればいいかもしれないです。

7. その他ご意見ご要望などございましたらお聞かせください

- ・ もっと具体的な発表があると良かったと思います。
- ・ 発表会での発表がやや形式(定式)化しているように感じます。多分、教員の指導によるものと思いますが……。もう少し独創的なものもあっても良いと思います。
形式(定式)化の発表パターン⇒「過去 → 活動 → 現在、得たもの → 将来」
- ・ 皆さんがんばって地域創成メディエーターを目指してがんばっていると思いました。
- ・ 発表者にスポットがあるといい。
- ・ 意欲ある学生が多く見えたが一部の学科学部が多いように見えたので、これからより多様な学部の方が立てれば何よりだと思う。

2023 年 2 月 16 日実施

(4) 活動報告

① 正課教育WG

1. 活動組織

委員長	上野薫
副委員長	伊藤守弘
委員	竹内環 山羽基 伊藤佳世 羽後静子 (櫻井誠)

2. 活動計画

- 4月-7月 「地域共生実践」春学期2クラス授業 (対面授業)
- 4月-9月 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し
- 4月-3月 地域創成メディエーターへの導き (広報活動)
- 4月-3月 次年度以降の開講数・講義手法の検討と情報収集
- 4月-8月 「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討
- 8月-9月 春学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
- 8月-9月 地域創成メディエーター申請様式検討
- 9月-1月 「地域共生実践」秋学期3クラス授業 (対面授業)
- 10月 地域創成メディエーター申請開始
- 11月 地域創成メディエーター審査 (プレゼンテーション候補者の選出)
- 11月-12月 地域創成メディエーター説明会開催
- 12月-2月 地域創成メディエーター学生発表会
- 2月-3月 秋学期「地域共生実践」ふりかえり、評価基準の再検討、協力者勧誘
- 2月-3月 「地域創成メディエーター」認定

3. 活動成果

総括：2022年度は春学期・秋学期とも「地域共生実践」は2年ぶりに全て対面実施となった。本科目はグループワークが主体であるため、対面実施の場合には感染リスクが高いが、フェイスシールドの着用と換気を十分に行った状況での実施となった。履修者の傾向として春学期は、一部の学生は受講登録はしたものの、長らくのオンラインに慣れ過ぎてしまい、対面講義への対応ができずに早々に未受講という学生も見られたが、他の学生は講義のねらいをしっかりと理解し、自身の弱点を意識して受講できている学生も見られた。秋学期は、1年生から受講可となり高校生活でコロナ制限により他者との関わりにおける自己成長が不十分と思われる学生が多く見られたが、時間をかけてグループワークを繰り返し進める中で、他学年も含めて少しずつ他者との関わりを深められるように考えて行動したり、最初は凝り固まった思考になっていた学生も少し柔軟になるなど、成長が見られた。また、春学期に比べて、途中から未受講になる学生が減少していた。履修時にはコミュニケーション力強化を求める学生が多く、地域創成メディエーター資格への目的意識は少し低いように感じられたため、この講義で身につけた力を地域創成メディエーター「動く」の活動において生かしてほ

しい。本資格エントリー時での「地域共生実践」の取得については、学生募集の観点から 2021 年度から選択科目に変更された。さらに、次なる教育システムのステップアップのためのスタッフ側の余力を産むために 2022 年度より春学期 2 クラス、秋学期 3 クラスの並列開講に削減となり、講義準備の負荷が軽減され充実した運営ができるようになった。

項目別：

- 4 月-7 月 「地域共生実践」春学期 2 クラスの授業運営を実施した。
(履修者 68+73=141 名、教員 5 名)
- 4 月-3 月 地域創成メディエーター育成のルーブリック評価の見直し:特に変更の必要性は認められなかったため、昨年通りで実施した。
- 4 月-3 月 地域創成メディエーターへの導き (広報活動):オリエンテーションでのパンフレット配布・説明などを行った。
- 4 月-3 月 各自で PBLゼミ、学外フォーラムに関わる参加を実施した。
- 4 月-8 月 「地域共生実践」テキスト修正案の作成・評価基準の検討:一部記載情報を最新版に修正した。
- 8 月-9 月 春学期終了後、担当者間で春学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、秋学期の協力者の勧誘を行った。
- 8 月-9 月 地域創成メディエーター申請様式検討:本年度は変更の意見がなく、昨年同様の様式での実施となった。
- 9 月-1 月 「地域共生実践」秋学期 3 クラスの授業運営を実施した。
(履修者 77+80+68=225 名、教員 6 名)
- 1 月-3 月 秋学期終了後、秋学期「地域共生実践」のふりかえり、評価基準の再検討を行うとともに、次年度の協力者を勧誘した。
- 10 月 地域創成メディエーター申請を予定通り開始した。
- 11 月 地域創成メディエーター審査 (プレゼンテーション候補者の選出) を予定通り実施した。
- 12 月 「地域共生実践」受講生への「地域創成メディエーター」説明会を開催 (2 回実施) した。「動く」指導担当教職員へのポスター作製における指導を昨年と同様に実施した。
- 1 月-2 月 口頭発表練習を 2 回実施し、プレゼンテーションの本質的な目的や具体的な方法について指導するとともに、学生同士での学びの機会を与えた (1 回目:2023 年 1 月 25 日、2 回目:2 月 14 日)。
- 2 月 学内にて次年度以降の (地域共生実践) 教材作成を視野に入れた、地域に公開型のスポーツ指導講習会を開催した。
- 2 月 地域創成メディエーター学生発表会「+エクスプレッション」の実施 (2023 年 2 月 16 日および 3 月 15 日)。
- 2 月-3 月 「地域創成メディエーター」認定 (59 名)。自主性の高い候補者の輩出を予定している。

4. 今年度の課題・次年度の目標

コロナ禍3年目となる2022年度における地域創成メディエーター資格へのエントリー数は、昨年度に比べて微減であるが、無理のない学生主体の希望数に近い値であったと考えられる。2023年度には、本学のSDGs関連講義のプログラムが活性化し、「地域共生実践」やその他の関連講義の担当者や意義の整理などが課題になってくると思われる。2023年度はコロナ禍4年目に突入し、大学の方針ではほぼコロナ前の講義運用に戻す予定である。with/after コロナの社会のありかたに変容する中、本講義においても無防備になりすぎることなく、これまでの経験を活かした柔軟な講義運用を目指したい。

<「地域共生実践」の授業風景>



グループワーク発表



グループワーク発表

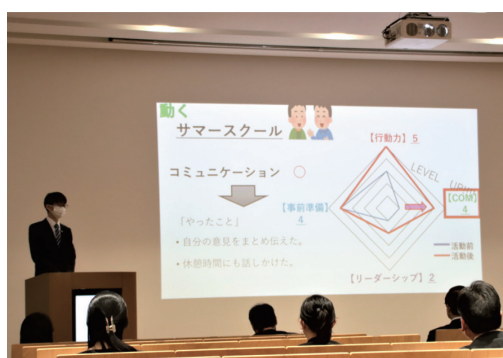


プレゼントカードの交換



プレゼントカードの交換

<地域創成メディエーター学生発表会［プラス・エクスプレッション］2023年2月16日>



口頭発表



ポスター発表

② 生活・住環境を考えるまちづくりWG

1. 活動組織

委員長 磯部友彦

副委員長 松山明

委員 岡本肇 横江彩 余川弘至 上野薫 山中由実 山下紗也加

2. 活動計画

4月-12月 「岐阜県東濃地区の食文化の伝承」の活動実施

5月-12月 「新・森の健康診断」の活動準備と実施

6月-9月 「健康救急フェスティバル」の活動準備と実施

6月～ 「アスコンについて～考動、未来につなぐ・残す～」の活動実施

6月-12月 タウンウォッチング(高蔵寺 NT タウンウォッチングなど)の実施

7月、8月ほか「水害に対する地域住民の防災意識向上プロジェクト」の学科学生との活動と春日井まつりでの実施

9月-12月 「春日井市における産地直売所を介した地域活性化への取組み」の活動実施

10月 「春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズ」にボランティア参加

10月-12月 地域交通に関する調査の実施

通年 「子育てすくすく育て隊」の活動実施

通年 「学生主体の標準化教育」の活動実施

通年 「こまきこども未来館プロジェクトマッピング政策」の活動実施

通年 「星空ネットワーク」の活動実施

通年 演習・ゼミナールのテーマとして現実の地域課題を取り上げる

通年 卒業研究のテーマとして地域課題に対する解決方法に取り組む

通年 地域の人々との十分なコミュニケーションを交えた学生の自主活動を促進する

通年 過年度の地域志向研究経費による活動のフォローアップをする

通年 地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する

3. 活動成果

1) 正課としての活動

a. 都市建設工学科「部門創成 B(3年生科目)」において現地視察等を実施。

10月4日 建設技術フェア 2022 (会場: ポートメッセなごや) に参加(杉井俊夫担当)
【参加学生 9 名】

10月11日 春日井市役所において春日井市職員との交流ならびに JR 春日井駅周辺の視察(磯部友彦担当)【参加学生 10 名】



春日井市役所で職員とともに演習実施



春日井市内の現地視察

10月11日 高蔵寺ニュータウンのまちづくりの見学(服部敦担当) 【参加学生9名】

10月18日 名古屋都市センターの視察(柴原尚希担当) 【参加学生10名】

b. 建築学科「ゼミナールA、B(3年生科目)」、「地域住宅計画(3年生科目)」、「建築・都市計画演習(3年生科目)」において現地視察等を実施(松山明担当)

5月6日 ゼミナールA 春日井市プログレスビレッジ春日井中央【参加者:学部生10名】

5月22日 ゼミナールA 多治見市滝呂団地、可児市桜ヶ丘ハイツ、みよし市あざぶの丘
【参加者:学部生10名】

6月6日 地域住宅計画 春日井市勝川駅周辺地区【参加者:学部生30名】

6月24日 ゼミナールA 小牧市グリーンテラス城山、C'sタウン光が丘
【参加者:学部生10名】

7月15日 ゼミナールA 守山区シティハイツ志段味【参加者:学部生10名】

7月4日 ゼミナールA 多治見市滝呂団地、可児市桜ヶ丘ハイツ、みよし市あざぶの丘
【参加者:学部生8名】

7月12日 ゼミナールA 守山区エコビレッジ志段味【参加者:学部生10名】

10月5日 ゼミナールA 春日井市桃山町2丁目(市営桃山住宅)、桃山町(北山住宅地)
【参加者:学部生10名】

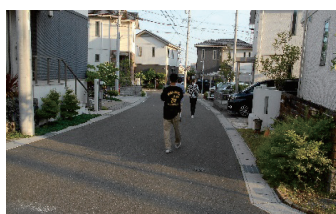
10月29日 ゼミナールB 熱田区尾頭町、北区市宮城北荘、北区大曽根北地区
【参加者:学部生10名】

11月22日 建築・都市計画演習 中区錦二丁目周辺(長者町繊維街)
【参加者:学部生29名】

9月29日 ゼミナールB 春日井市市営桃山住宅【参加者:学部生10名】

10月13日 ゼミナールB 春日井市桃山町北山住宅地 【参加者:学部生10名】

12月14日 ゼミナールB 高蔵寺NT 藤山台【参加者:学部生10名】



c. 都市建設工学科「特別講義(1年生科目)」において現地視察を実施した。

11月23日 (一社)日本建設業連合会中部支部主催の学生現場見学会に参加。中日本高速道路(株)が施工中の東海環状自動車道、北勢第三高架橋第三工区(PC上部工)の工事現場を見学した。(柴原尚希、岡本肇担当)【参加学生76名】

d. 都市建設工学科「卒業研究(4年生科目)」において視察等を実施した。

7月5日 名古屋都市センターの視察(磯部友彦担当)【参加学生9名】

7月23日 戸田川緑地および名古屋市中川区都市農地等の視察(岡本肇担当)
【参加院生1名、参加学生2名】

2) 各学科の卒業研究

a. 都市建設工学科での卒業研究において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生41名】

2022年度 都市建設工学科 地域志向課題の卒業研究タイトル一覧 (41件)

	研究室	課題
1	磯部	知多半島の活性化 〔概要〕知多半島では「工業化の波」、「ベッドタウン化の波」と社会の大きな変化が過去に見られた。今後の活性化のためには「アウトドア化の波」にうまく乗ることが必要である。
2	磯部	各市町村の自転車通行空間整備に関する現状分析 〔概要〕市町村が既に公表している自転車活用推進計画から、自転車通行空間整備におけるネットワーク路線選定と優先整備路線の選定の際に「何を検討しているのか」、「何を重視しているのか」について、現状を明らかにした。
3	磯部	大都市近郊における地域公共交通の実態調査ー愛知県岩倉市ー 〔概要〕ふれ愛タクシー利用者へアンケート調査結果から、交通空白地域では他の地域に比べ公共交通機関の利用が少なく、個人での移動が主な交通手段となっており、当該地域の住民は外出時の移動の負担が大きいことが分かった。
4	磯部	三重県川越町の「ふれあいバス」の現状と課題 〔概要〕ふれあいバス事業は現在もこれからも高齢者や交通弱者にとって必要な事業であることが明らかになった。また、導入が検討されているデマンドタクシーは同町の地域公共交通の充実に向けて期待が大きいことが分かった。
5	磯部	高齢者の健康増進を目指した地域公共交通システムについてー「チョイソコふそう」を例にー 〔概要〕交通が不便な場所の利用者には、新しく始まったチョイソコふそうの積極的な利用がみられ、外出の手助けになっていることがわかった。しかし、新しく外出できた利用者は少なく、健康向上を支えるまでには至っていない。
6	磯部	地域とともに改善させた地域公共交通システムの評価ー春日井市「北部オンデマンドバス」を例にー 〔概要〕北部オンデマンドバスは地域住民の需要にしっかりと答えられている。しかし、予約の取りづらさと一台でのサービス供給の限界が問題である。運転手、オペレーターの接客の良さが主な利用者である高齢者に好評である。
7	磯部	三岐鉄道北勢線の利用促進策の検討 〔概要〕三岐鉄道北勢線には、その立地条件と特徴的な形状に大きな魅力がある。新しい名所を作ること、流行に乗ったキャンプ場を建てること、そこでイベントを行うことなどで、より多くの利用者確保にむけた対策が必要である。
8	磯部	高速道路と鉄道の機能一元化に関する考察 〔概要〕鉄道の輸送密度の減少と高速道路の交通量の増加は鉄道網に匹敵する高速道路網が整備されてきた近年に明確な関係性がみられた。鉄道の代わりに高速バスを運用することが解決策の一つである。提案したスキームは、国と地元自治体、鉄道事業者の3者それぞれに利益をもたらす。
9	武田	春日井市における内水氾濫とそのリードタイム水防災に関する検討
10	武田	春日井市における外水氾濫とそのリードタイム水防災に関する検討
11	武田	Hydro-STIVを用いた流速観測
12	武田	地下街に関する状況の整理と浸水避難対策のあり方に関する研究
13	武田	名古屋の地下街の避難シミュレーションに関する基礎的研究
14	武田	庄内川における流域治水に関する研究

15	武田	庄内川の支川流域に関わる河川合流部の調査と治水安全度の検討
16	武田	建物配置に関わる庄内川流域の調査について
17	尾花	水田の貯留効果に関する研究
18	尾花	流水型ダムの堆砂に関する研究
19	尾花	多自然放水路の環境創出機能に関する研究
20	尾花	多自然放水路の物理環境に関する研究
21	岡本	ジブリパーク開園による大芝生広場の使われ方に関する研究～開園前と比較して～
22	岡本	朝宮公園における公園整備事業後の公園利用に関する研究
23	岡本	木曽川スケートボード場公園の利用実態に関する研究
24	岡本	都市公園における官民協働活動に関する研究～戸田川緑地に着目して～
25	岡本	癒しの場としての緑道の可能性に関する研究～名古屋市内を対象として～
26	岡本	自分史を活用した記憶に残る空間の抽出方法に関する研究～感情と場の関係性に着目して～
27	岡本	Hisaya-odori Parkの使われ方に関する研究～主に飲食店利用後の動向に着目して～
28	岡本	土地区画整理完了後の農地保全・減少の空間的条件に関する研究～名古屋市中川区を対象として～
29	服部	尾張地方の警固祭りに関する比較研究
30	服部	犬山市及び周辺のキャンプ場の比較研究
31	服部	春日井市の地域包括支援センター及び地域包括ケア会議の比較研究
32	服部	桑名市における車中泊避難に対応可能な施設の検討
33	服部	愛知県内の鉄道駅のホームドアの設置状況に関する研究
34	服部	知多地域のコミュニティバスに関する研究
35	服部	競馬場及び場外馬券場の施設と立地環境の比較研究
36	服部	瀬戸市におけるごみ収集場所に関する研究
37	柴原	岐阜県の都市公園におけるSDGs政策の実施状況調査
38	柴原	岐阜県関市における減災方法の検討
39	柴原	アスファルト舗装とコンクリート舗装のライフサイクルコストの比較
40	柴原	無人駅のユニバーサルデザインに関する研究
41	柴原	LCAを用いた都市内交通のCO ₂ 排出量の算定

b. 建築学科での卒業研究、卒業設計において地域に関する多くの課題が選定され、解決方法の検討がなされた。【参加学生 47 名】

	研究室	論文タイトル
1	古川	欠点のある地域産小径スギ材の力学的特性解明とその利用 ー虫害等を受けた地域産小径スギ材の力学的特性の検討ー
2	古川	地域産ヒノキ材を利用した重ね梁を用いた学校建築の再現 ー自作重ね梁部材の性能実験ー
3	古川	欠点のある地域産小径スギ材の力学的特性解明とその利用 ー虫害等を受けた地域産小径スギ材の力学的特性の検討ー
4	古川	欠点のある地域産小径スギ材の力学的特性解明とその利用 ー虫害等を受けた地域産小径スギ材の力学的特性の検討ー
5	横江	住宅特性と地域特性による温熱環境に関する研究
6	横江	住宅特性と地域特性による温熱環境に関する研究
7	松山	土地区画整理事業による暮らしの変化と事業の評価の研究 ー安城南明治地区を例にー
8	松山	平田荘の建て替え事業の評価に関する研究

2 活動報告

9	松山	人々の外出行動から見た伝統的街並み環境整備の効果に関する研究 ー犬山市城下町地区を事例にー	
10	松山	人々の外出行動から見た伝統的街並み環境整備の効果に関する研究 ー犬山市城下町地区を事例にー	
11	松山	人々の外出行動から見た伝統的街並み環境整備の効果に関する研究 ー犬山市城下町地区を事例にー	
12	松山	まちづくり活動で整備されたポケットパークの利用状況 ー可児市桂ヶ丘ポケットパークの事例からー	
13	松山	まちづくり活動で整備されたポケットパークの利用状況 ー可児市桂ヶ丘ポケットパークの事例からー	
14	松山	愛知県及び岐阜県東農地域のサービス付き高齢者向け住宅の課題に関する研究	
15	松山	愛知県及び岐阜県東農地域のサービス付き高齢者向け住宅の課題に関する研究	
16	松山	愛知県及び岐阜県東農地域のサービス付き高齢者向け住宅の課題に関する研究	
		論文タイトル（※は地域志向外）	設計タイトル
17	中村	※宮脇檀の住宅の研究	まちと人をつなぐ ー笠松競馬場と集合住宅の一体化ー
18	中村	※アドルフ・ロースの立面のプロポーションに関する研究	こどもの雨宿り ー高浜市の児童館・こども園・農業支援の複合施設ー
19	中村	※ムデハル様式がガウディに与えた影響に関する研究	江南市フラワーパークにおける植物園
20	中村	※都市居住とアーバンイズムに関する研究	まちの食卓 ー東海市大田町の食の総合拠点ー
21	中村	※ミースとシンケルの建築立面におけるプロポーションについての比較研究	花が集まり、人が集まる ー愛知豊明花卉市場をまちへ開くー
22	中村	※Rヴェンチュエリの定義する中間領域を現代の建築からみる	お茶を五感で感じる ー牧之原台地深蒸し茶を味わうティーナリーー
23	中村	※篠原一男の第1の様式における住宅の研究	風景に溶け込む飯田市クリーンセンター
24	中村	※住宅建築の変遷に関する日中の比較研究	湿地の巣作り ーハルビン自然博物館
25	中村	※石元恭博の3つの桂を通して「日本のなもの」の研究	遠州織物の始原へー浜松の繊維産業の再興ー
26	中村	※ローレンス・ハルプリン研究 ーRSVPサイクルから見たデザインの変遷ー	犬山城下の再構築
27	中村	吉島家住宅の研究	仏教と地域コミュニティの接点へ ー乙津寺におけるフリースクールと公民館の複合施設ー
28	早川	※木造ハウスメーカーの比較研究 ー住宅性能、コスト、ディテール、デザイナーー	公園と住宅
29	早川	※ゾーニングによるオフィスの分析	THE PARK
30	山岸	※建築における外観・表皮の可能性 ールイ・ヴィトンの4つの要望と青木淳ー	Diffusion ～まちの交差点～
31	山岸	複合型スタジアム ー多機能があたえるスタジアムへの影響ー	立体的な誘導 ー岡崎南公園のスポーツ施設改修・新しい魅力～
32	山岸	小学校の廃校活用の方法 ー全国先進事例と愛知県の事例を通じてー	大雨河小学校リノベーション計画 ー天使の森プロジェクトの拠点ー
33	山岸	建築がもたらすふるまい ー水族館における生物と観覧者の行動～	潜る ～建築がもたらすふるまい～
34	山岸	重伝建地区内における建築物に対する行為 ー非保存対象の建築物の実態ー	まちを織る
35	金	遊休空間の活用方法に関する研究 ーボードゲームを利用したコミュニティスペースの生成ー	「見て、学ぶ。」 ー漫画家から考える寮に求められる機能ー
36	金	遊休空間の活用方法に関する研究 ーボードゲームを利用したコミュニティスペースの生成ー	虚(うそ)から出た実(まこと) ーポケモン「ソード/シールド」からー
37	金	映画館の利用実態と必要とされる空間に関する研究	Lm AQUA MUSEUM ー光による深淺の表現ー
38	金	遊休空間の活用方法に関する研究 ーボードゲームを利用したコミュニティスペースの生成ー	夢中道楽 ー心躍る一瞬を～
39	金	映画館の利用実態と必要とされる空間に関する研究	NATURAL COMPACT CITY ー豊かな環境と豊かな生活ー
40	金	喫茶店での心地よい空間について ーアクリル板の設置方法ー	Natural restaurant ー人と自然をつなぐ場所ー
41	金	北海道の廃校活用に関する論文 ー廃校の有効的な活用方法を見出すためのデータ作製ー	のびのびと、いきいきと、 ーこどものための公共施設ー
42	金	遊休空間の活用方法に関する研究 ーボードゲームを利用したコミュニティスペースの生成ー	新たなコミュニティの形 ー商店街のある生活ー
43	金	喫茶店での心地よい空間について ーアクリル板の設置方法ー	和風にこだわったIR ー日本のカジノを求めてー
44	金	北海道の廃校活用に関する論文 ー廃校の有効的な活用方法を見出すためのデータ作製ー	Adaptability ー環境に適応する学校ー
45	金	北海道の廃校活用に関する論文 ー廃校の有効的な活用方法を見出すためのデータ作製ー	Post town -MOMIJI- ー足助の特徴を生かした施設ー
46	古川	地域産ヒノキ材を活用した学校建築の実現 ー恵那産ヒノキの重ね梁部材の性能実験ー	人々に開かれた林業の再興へ ー木材流通センターと林業ミュージアムの複合施設ー
47	勅使川原	※壁式鉄筋コンクリート造設計 ー手計算と構造解析ソフトでの比較ー	瑞穂を未来へ繋ぐ ー壁による市の変化ー

3) 地域創成メディエーターの育成

下記に示す「動く」の活動を通じて、地域創成メディエーターを育成した。

a. 新・森の健康診断(墨泰孝、上野薫担当)

実施日：2022年12月3日(土)、4日(日)

実施場所：中部大学研修センター(恵那)

参加学生：18名(環境生物科学科13名、応用生物化学科4名、現代教育学科1名)

卒業生(TA)：4名

教員：墨泰孝(応用生物化学科)、上野薫(環境生物科学科)

事務局：村上誠治(土岐川庄内川源流の森委員会事務局)

[概要] 日本の森林問題のうち「人工林の荒廃」に関わる議論材料として今年は「恵那で野生生物と共存するために」と題して2日間の課題解決型のグループワークと現地演習を実施した。初日は現状理解と課題解決に向け、基礎情報の共有を座学により行い、午後から「恵那でイノシシやシカと共存するための方策」のグループ提案作成に取り組んだ(コロナ禍のため、Zoomによる実施)。2日目は中部大学研修センターに集合し、午前中は各班の提案発表、さらに地元のキーマンや自治体関係者等と意見交換を行った。午後からは、森林の実態把握のために現地での獣害や森林の状況調査、罠の模擬演習を行った。これらにより、森林に関わる獣害を含めた問題の認識とその要因の複雑さを理解し、地域における課題解決のための行動について一歩踏み込んだ経験を積み、次世代のキーマンにそれぞれがなれるよう、また日常生活で留意すべきことなどを自ら考えてもらう機会とした。初対面かつ短時間でのZoomを使ったグループワークは難しかったようだが、制限時間のある中でのある程度の質が求められる提案発表を完成させるために何が重要であるかを知るよい機会となったようである。2日目午後からの現地演習では、日ごろ森林に接触することのない学生たちにとっては、ようやく森林の現状を把握できる貴重な機会になったようであり、現場をリアルに経験することの重要性が再認識された。参加学生たちは1月末の締め切りでレポートを提出した。

[活動成果]

【1日目】：参加学生はZoom。Zoom発信は中部大学研修センター第3研修室

9:30 開会式

10:00～10:20 座学1 恵那市における森林・林業・獣害の状況と課題
(恵那市役所 林政課 原田氏)

10:20～10:40 座学2 恵那市における鳥獣害駆除の現状と課題
(土岐川源流の森委員会 村上氏)

<5分休憩>

10:45～11:05 座学3 イノシシの生態と生物の駆除に関わる留意点(上野)

11:05～11:35 座学4 グループワークの課題と方法、午後からの進め方(上野)

11:35～12:00 グループワーク1(ブレイクアウトミーティング)

<昼休憩>

12:50～18:00 グループワーク 2 (ブレイクアウトミーティング)

【2日目】: 恵那キャンパス

9:30 中部大学研修センター集合 (@第3研修室)

10:00～11:00 発表会 (プレゼンテーション)

11:05～11:40 意見交換会

11:40～12:10 閉会式 (講評、総括、感想)、集合写真撮影

<12:10～13:00> 昼食 (各自持参)

昼食後 森林観察・罨演習。16時頃 全活動終了、現地解散



図1 2班の提案発表



図2 3班の提案発表



図3 市民による講評



図4 卒業生による講評



図5 発表後の集合写真



図6 午後からのフィールド*説明



図7 くくり罨の実習



図8 調査結果の共有と解説



図9 切り捨て間伐現場の観察
と解説

(注) 実施画像は対面実施の2日目のみ

b. 春日井まつり わいわい☆カーペンターキッズ（松山明担当）

春日井まつり（2022年10月15日、16日）中央公園会場において建築士会春日井支部主催のイベントに参加し、児童に対して都市：まちを構成する各種建築模型作成のお手伝いをすることで、建築と都市のあり方を再考察した。



まずは建築模型を作成してみる



次に児童の建築模型作成を指導している様子



出来上がった建築模型をまちに並べてみる

c. 高蔵寺ニュータウン定点観測（磯部友彦・松山明担当）

ニュータウン内に設置の施設などの多様性を観察し、さらにそれらの変化を感じ取る。

10月16日 中央台、高森台の視察 【参加学生1名】

11月27日 KOZOJI PLATに参加、高蔵寺まちづくり株式会社の豊田章起さん(中部大OB)から説明を受ける。高蔵寺駅北口周辺の視察 【参加学生2名】

12月8日 グルッポふじとうの視察(豊田さんの説明)、藤山台の観察【参加学生1名】



KOZOJI PLATで豊田章起さん(中部大OB)から説明を受ける



グルッポふじとうで豊田章起さんから説明を受ける



高蔵寺駅周辺に移設された病院周辺の視察

d. 健康救急フェスティバル活動（矢野智奈美・宮田茂担当）

栄養に関する専門知識、伝統的な食文化、食の安全・衛生管理、ヒトの組織の構造と機能等からそれぞれテーマを設定し、自学自習やお互いの討論を通して、老若男女に対して説得力のある啓発方法の開発を行った。

6月～7月 テーマの選定と事前打ち合わせ（学内）【参加学生14名】

8月6～8日 オープンキャンパス（学内）【参加学生8名】

9月4日 健康救急フェスティバル（春日井市体育館）【参加学生12名】

合間合間に振り返り学習により、展示と説明の仕方の改善を行った。



ヨーグルト内の菌をみせて、
その機能性について紹介



栄養バランスの現状説明と改善
について提案

e. 春日井市における産地直売を介した地域活性化への取組み（JA 尾張中央と連携、ぐうぴいひろばでの活動）（山中由実・小川宣子担当）【参加学生5名】

品種が異なる春日井市産の5種類の大根の特性を、外観、味（辛味、甘さ）、みずみずしさ、生と加熱後の硬さ、細胞観察から分析し、その結果と最適な料理の提案などの内容をチラシにまとめ、ファーマーズマーケットぐうぴいひろばにてお客様にチラシを用いて直接説明した。これにより消費者は地域産食材の良さの認知が高まり、学生にとっては消費者に直接、自分たちが分析・考察した結果を紹介する機会となった。合わせて大根生産者からも生産時の苦労話などを聞き、生産の大変さを学生は知ることができた。

お客様への大根の紹介時には、活動内容についての意見も伺った。

9月7日：JA尾張中央からJAの取り組みや現場での課題について話しを聞く。

9月21日：活動打ち合わせ

9月28日：ファーマーズマーケットぐうぴいひろばの現地調査

10月5日：予備実験の実施

10月26日：大根生産者へのインタビュー

11月9日～12月1日：大根の特性実験、アンケート作成

12月17、18日：ファーマーズマーケットぐうぴいひろばでチラシを用いて大根の特性と料理について直接、お客様に紹介し、アンケートを実施した。



JA 尾張中央から話を聞く



大根生産者から話を聞く



ぐうぴいひろばでの活動

f. 春日井まつり 水害に対する地域住民の防災意識向上プロジェクト（武田誠・尾花まき子担当）【参加学生2名】

7月27日 水害が多発している現状と人の防災意識に関わる課題、防災意識向上の必要性を教授し、プロジェクトの意義および内容に関わる打ち合わせを行った。「動く」に関わる活動として、春日井まつりにおいて、参加住民に都市浸水のメカニズムと防災対策を説明し、住民の防災意識向上を目指す。

8月8日 オープンキャンパスの都市建設工学科の学科説明に参加し、高校生に対して、都市浸水模型を活用した水に関わるまちづくりの課題と対策の説明を行った。

10月15、16日 「春日井まつり」にて都市浸水模型を活用した説明を実施した。16日は533名の来場者があった。15日を合わせると1000名程度の来場者があったと推察される。参加学生は、多くの市民に対して活動を行い、住民の防災意識向上について貢献した。

10月26日 活動の振り返りを行い、次年度に向けての課題を抽出した。



春日井まつりにおける都市
浸水模型を用いた説明の様子



春日井まつりのブースの様子

g. 学生主体の標準化教育（伊藤佳世担当）

学生主体の標準化教育を通じて標準化を学ぶとともに青少年支援を行い、持続可能な社会を担う人材を育成する。2022年度は名古屋市の支援のもと気候変動適応の標準化教材「地球からのSOS」を開発した。開発の段階で6つの組織と専門家連携を行った。メディアーターでは、開発した教材を用いた標準化教室を展開した。イベント出展、中高大連携、産学連携を推進した。イベント来場者数合計は6159名であった。

日時	行事	参加学生
4月～11月	教材開発・改訂 パンフレット・ポスター、動画作成・改訂	31
5月13日、14日	イベント出展 未来環境 EXPO	6
5月15日	イベント出展 春日井わいわいカーニバル 紙芝居	5
6月～12月	かがやけ☆あいちサステイナ研究所 研究員	3
6月25日、26日	大学間連携 全国環境マネジメントシステム学生大会	1
7月6日、8月23-25日、 9月5-14日	中高大連携 春日丘中学連携	8

2 活動報告

8月31日	専門家連携 日本規格協会	3
	専門家連携 産業環境管理協会	3
9月1日	専門家連携 経済産業省	2
	専門家連携 NACS	3
9月2日	専門家連携 サステイナブル経営推進機構 (SuMPO)	2
9月4日	産学連携 日本青年会議所 静岡ブロック協議会 ESG 委員会	5
9月9日	専門家連携 国立環境研究所	3
9月15日	イベント出展 中部大学フェア	8
9月17日	イベント出展 環境デーなごや 2022	7
9月17日	中大連携 啓明祭	1
10月6-8日	イベント出展 愛知 SDGs EXPO	3
10月8日	イベント出展 鶴舞紙芝居	2
10月22日、23日	イベント出展 春日井まつり 2022	6
11月2日	中高大連携 市邨高校	1
11月4日	産学連携 東邦ガス	4
11月26日	名古屋市消費生活フェア なごやエシカルフェア☆2022	6
12月7-9日	イベント出展 エコプロ 2022	11
12月10日	かがやけ☆サステイナ研究所成果発表会	3
12月12日	FM あいち	3
2月12日	社会人基礎力育成グランプリ	3
2月13日	エシカルセミナー トークセッション	3
3月1日	標準化活用勉強会	6

h. 星空ネットワーク（大嶋晃敏担当）

1) 高蔵寺ニュータウンでの星空観察会【参加学生 15 名（8/6）、10 名（12/10）】

2022 年 8 月 6 日（土）と 12 月 10 日（土）に、高蔵寺ニュータウンにある「グルッポふじとう」において星空観察会が開催された。「グルッポふじとう」からの依頼を受けた中部大学天文台では、天文台学生サポーターと本学教員・客員で観察会の支援をおこなった。各日とも近隣から 60 名の参加者があり、天文学学生サポーターによる天体望遠鏡操作の指導の甲斐あって、多くの子供達が天体観測の楽しさを経験することができた。



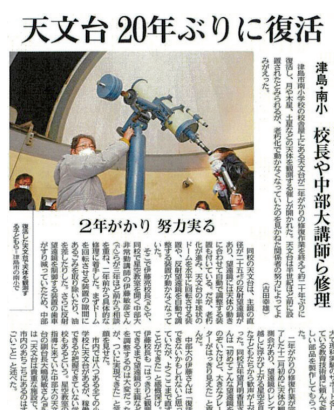
会場の準備をする学生サポーター



望遠鏡の指導を行なう学生サポーター

2) 津島市での星空教室【参加学生 7 名】

2022 年 12 月 2 日（金）に、津島市立南小学校で「星空教室」が開催された。約 50 年前に小学校に設置された天文ドームと、そこに納められた天体望遠鏡の復活を記念するイベントに 50 名参加者が集まった。小学校からの依頼を受けた中部大学天文では、天文台学生サポーターと本学教員で観察会の支援にあたり、運動場での観察会とドーム内の望遠鏡の操作補助を行なった。この活動は後日、中日新聞尾張版に取り上げられた。



中日新聞尾張版 12 月 23 日



復活した天体望遠鏡



小学校の運動場での星空教室

i. 岐阜県東濃地区の食文化の伝承（山下紗也加・小川宣子担当）【参加学生 5 名】

恵那市の特産物を食育を通して幼児に紹介する活動を実施した。この活動を通して幼児は地域に目を向け、将来は地域活性化に繋がることを期待できるとともに、学生にとっても活動内容を検討する中で、恵那市の良さを知ることができた。また、活動を通して、グループで食育の内容を検討したり、実演まで予行演習を繰り返すことで、コミュニケーション能力を修得するとともに、幼児期における食育の意義について学ぶことができた。

また、園児に食育の内容についてインタビューをし、活動の効果を確認することで今後の食育活動の参考とした。

4月28日, 5月11日, 6月22日・29日, 7月2日・29日, 8月3日・6日, 9月14日：活動打ち合わせ

8月7日・8日・10日・31日, 9月1日・15日：使用媒体作り及び練習

9月12日：食育予行演習

9月16日・20日：恵那の特産物である「紅うど」について対面で食育を実施。園児にインタビュー

10月1日：インタビュー結果について報告書を作成し、保護者に配布

10月1日・3日：活動打ち合わせ

10月6日, 11月4日・8日・22日：使用媒体作り及び練習

11月29日：食育予行演習

12月8日：恵那市の特産物「栗」について対面で食育を実施。園児にインタビュー

12月13日：インタビュー結果について報告書を作成し、保護者に配布



恵那市保育園で「紅うど」について食育活動



「栗」の食育で「栗拾い」の様子

j. こまきこども未来館プロジェクトマッピング制作（柳谷啓子・柊和佑担当）

- 小牧市連携事業として、こまきこども未来館4階末就学児エリアの20m×3mの壁面と床・天井の演出、年4回コンテンツを納品
 - 四季の風物詩、ひらがなの練習、あいさつ表現等の映像作品を制作・投射し、入場無料のここに来れば、どんな家庭環境の子どもも上質な情操教育の場に身を置くことができる環境を提供することが目的（SDGs4）
 - 学生らは、企画・イラストデザイン・モーション・音楽等の部門に分かれてそれぞれの部門の中でコミュニケーションをとり、協働して作業を進め、年間を通して原則的に週1回の学生会で進捗状況を互いにチェックし合い（25号館会議室）、議論を重ねて、チーム全体としての作品に仕上げていく。スケジュール管理なども自分たちで行っている。
 - 年間を通して、原則的に隔週で教員も交えての報告・アドバイスの全体会を開いている（25号館会議室）
 - 学生らは、この他にも自主的に勉強会を開いて、上級生が下級生にAdobe Illustrator, After Effects や Blender などの操作方法を伝授したり、外部講師を招いて新たな手法などの教授を受けたりしている。
 - 主な活動（合計51日）は以下のとおり：
- 4/5, 12, 19, 28, 5/17, 31 学生会【参加学生平均12名】：6・7・8月用コンテンツの進捗状況報告・意見交換・試写の機材確認 9・10・11月用サブコンテンツ進捗状況報告・意見交換、外部講師に教授を請うスキルの洗い出し、試写スケジュールの確認、1年生勧誘イベントの企画
- 4/7, 21 全体会【参加学生10名+教員2名】：6・7・8月用メインコンテンツの進捗状況報告・アドバイス、9・10・11月用サブコンテンツ（無音の小品）の構想発表、ミーティング・納品・試写スケジュールの確認
- 5/19 外部講師による勉強会【参加学生9名】：チームラボ・ネイキッドの作品鑑賞と分析、マッピングらしく見せるコツ等
- 5/23 6・7・8月用コンテンツ納品
- 5/12, 26, 6/9, 7/7, 21 全体会【参加学生平均12名+教員2名】：コンテンツ制作の際のルールの確認、地域創成メディエーター「動く」活動としての健康チェックシートの確認、9・10・11月用メインコンテンツの進捗状況報告・上映・アドバイス、現場

の状況（ミュート化されたままのことがある）への対応策の検討，12・1・2 月用コンテンツの企画報告・アドバイス

5/31, 6/14, 28, 7/12, 19, 26, 8/4, 9 学生会【参加学生平均 12 名】：9・10・11 月用コンテンツの進捗状況報告・意見交換，12・1・2 月用コンテンツの企画・絵コンテ，外部講師による勉強会の前回からの課題・依頼内容の確認，大学祭への出展内容の検討，貸し出し PC の確認

7/22 外部講師による勉強会【参加学生 9 名】：オブジェクト測定方法，大学祭上映コンテンツの企画相談，各自の疑問解決

8/18 学内試写会【参加学生 5 名＋教員 1 名】

8/23 9・10・11 月用コンテンツ納品

8/23, 9/1, 8, 12, 26, 10/11, 25, 11/8, 15, 29 学生会【参加学生平均 9 名】：12・1・2 月用メインコンテンツの進捗状況報告・意見交換・音楽検討，12・1・2 月用サブコンテンツの進捗状況報告・意見交換制作，大学祭用コンテンツ制作，3・4・5 月用コンテンツ企画，6・7・8 月用コンテンツ構想

8/25, 9/22, 10/6, 20, 11/17 全体会【参加学生平均 9 名＋教員 3 名】：12・1・2 月用メインコンテンツの音楽報告・アドバイス，3・4・5 月用コンテンツ企画報告・アドバイス，大学祭用コンテンツの材料購入・機材手配の確認，大学祭反省会

10/27 外部講師による勉強会【参加学生 9 名】：大学祭上映コンテンツの試写・アドバイス・修正作業

11/4, 5, 6 大学祭研究発表展で上映

11/28 12・1・2 月用コンテンツ納品，現地試写

12/1, 15, 22 全体会【参加学生 9 名＋教員 3 名】：3・4・5 月用コンテンツ進捗状況報告・アドバイス，正月学内上映会の検討，3・4・5 月用コンテンツ納品予定日確認

12/6, 20 学生会【参加学生 9 名】：3・4・5 月用コンテンツ進捗状況報告・アドバイス，正月学内上映会の企画・コンテンツ選択・機材手配



こまきこども未来館 4 階上映現場



学生会活動風景

k. アスコンについて「考動、未来につなぐ・残す」（余川弘至担当）

現場実習及び見学による学びと、グループワークによる課題解決能力の向上を目的とする。内容は以下の通り。

○現場実習および見学を通じて、道路工学の現状と課題をより深く学ぶこと

- ・「目で見て、耳で聞いて、手で触り、匂いを嗅ぐ」を体感
- ・近隣工事現場における「道路工事の目的、必要性」及び道路の構造を理解する

○アスコン施設内にて

- ・産業廃棄物であるアスファルト・コンクリートの受入見学
- ・産業廃棄物である再生資源としての役割、及び再生資源としての再利用の確認
- ・再生アスファルト、新アスファルトの製造見学、及び資材（材料）の確認
- ・アスファルトの実習体験

○実習後のグループディスカッション

- ・テーマ「海洋ごみの再生利用とアスファルト」について
→グループディスカッション（学生目線で資源の有効活用を検討）

[活動成果]

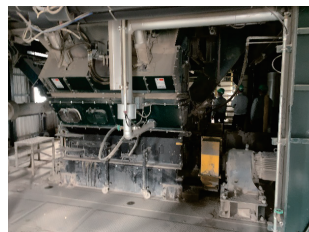
- 1) 事前勉強会：6月22日(水) 【参加学生 都市建設工学科2,3年生 12名】
現場実習に先立って、アスファルトについて学ぶ機会を設けた。
- 2) 現場実習：7月16日(土) 【参加学生 都市建設工学科2,3年生 12名】
名古屋中央アスコン(愛知県名古屋市)を訪問し、現地実習・研修を実施した。アスファルト合材の製造過程やリサイクル状況を見学するとともに、アスファルト合材の供試体作成やマーシャル安定度試験を体験した。(写真1～6)
- 3) 成果発表会：9月12日(月) 【参加学生 都市建設工学科2,3年生 12名】
事前勉強会、現場実習を受けて、海洋ごみを混合したアスファルトの再利用の可能性について最終発表会を実施した。



1 アスコン工場の様子



2 講習写真



3 工場内見学



4 海洋ごみを含有したアスファルト



5 マーシャル試験



6 温度管理

4. 今年度の課題・次年度の目標

- 1) 卒業研究、卒業設計のテーマ選定において、多様な地域の課題を考慮する。
- 2) 受講科目の指導を含めて地域創成メディエーターの育成を計画的に実施する。
- 3) 地域課題への取り組みを、教員だけでなく学生・院生を交えて活発化させる。
- 4) 春日井地域での活動経験をもとに、他地域での活動にも積極的に取り組む。

③ 世代間交流プログラム WG

1. 活動組織

委員長 堀文子

副委員長 戸田香

委員 野田明子 伊藤守弘 宮下浩二 横手直美 尾方寿好 水上健一
北辻耕司 矢澤浩成 谷利美希

2. 活動計画

- 1) 4 月～3 月 KCG サークルでの健康教室指導 (2 回/月 学外開催)
- 2) 4 月～3 月 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み
(毎週火曜日 4 回/月 学外開催)
- 3) 4 月～ 健康寿命延伸・認知症と生活習慣病予防のための快眠・運動教室
(月 2-3 回 52 号館 1 階実習室)
- 4) 4 月～ 在宅訪問・遠隔相談、高蔵寺集会場における地域交流 快眠教室
(不定期 学外開催)
- 5) 9 月～ C A A C 大学講義の補助 (健康増進実習など)
- 6) 5 月～ 12 月 アクティブシニアとの交流活動
- 7) 7 月 22 日 (金) 第 1 回多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」
9 月 2 日 (金) 第 2 回多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」
- 8) 8 月 28 日 (日) 令和 4 年度春日井市総合防災訓練 消防団活動
- 9) 11 月 5 日 (土) 体力測定会(睡眠・物忘れ相談、動脈硬化検査、心電図検査)
- 10) 12 月 1 日 (木) 中部大学春日丘高等学校衛生委員会現職教育
- 11) 12 月 3 日 (土) 障がい者スポーツのすすめ

3. 活動成果

1) KCG サークルでの健康教室指導 (月 2 回開催) (LP 矢澤浩成)



KCG (Kouzouji Chubudaigaku Genki) サークルは、地域在住高齢者・理学療法学科学生・教員で構成された健康増進サークルであり在籍数は約 50 名である。毎回、地域在住高齢者 20 名程度、5～10 名の学生が参加している。具体的な活動内容は、健康増進またはフレイル予防のための体操指導・レクリエーション・ディスカッション等である。

この活動により、高齢者の健康増進および身体的フレイル・社会的フレイル予防に留まらず、理学療法士を志す学生の準医療人としての自覚と臨床力向上という、世代間の相乗効果が得られた。さらに高齢者と学生がお互いに尊重し支えあう関係が構築されることで地域活性化の期待感が高まり、特に学生はこの学外活動を通して地域貢献に対する意欲が

向上した。また、コロナ禍において感染予防対策についてメンバーで検討を重ね、安全で安心な活動として継続することができた。

2) 地域におけるスポーツ・防災活動を通じた地域活性化への取組み (LE 尾方寿好)

高蔵寺ニュータウンの藤山台にあるグルッポふじとうにて、毎週火曜日の 14:45~17:00 にシニア(10名)と小学生(10名)を対象とした運動教室のそれぞれを実施した。この教室では、スポーツ保健医療学科の学生2名(4年生1名、3年生1名)が運動指導に当たっている。世代間交流を通じたコミュニケーション能力の向上のほかに、キャリア開発などの学生にとって有益な学びがあったと思われる。4年生は、この教室を共同運営している社会福祉法人への就職が内定した。これは、「産業界等が大学等での人材育成に対する協力を積極的に行うことで、大学等の人材育成機能を高め、結果として優れた人材が地域へ定着する」という、文部科学省の地域連携プラットフォームの理念に合致するものである。2022年度で、教室開始から5年目が経過するが、引き続き学生のキャリア開発につなげる活動をしていきたい。

3) 健康寿命延伸・認知症と生活習慣病予防のための快眠・運動教室 (LB 野田明子)

本活動は生命医科学科学生と生命健康科学研究科大学院生で2013年から継続している。年1回の体力測定会においても実施している頸動脈超音波検査による動脈硬化評価、血圧測定および尿検査から心血管病予防のための生活指導を行った。また、睡眠・物忘れ相談者には睡眠・認知機能評価を行い、快眠と物忘れ予防について指導した。高血圧コントロール不良、軽度の睡眠障害や物忘れを早期に発見し、心血管病、睡眠障害・物忘れの予防や進行抑制に役立っている。コロナウイルス感染重症化予防として酸素飽和度の測定も継続している。今後も地域住民の健康長寿を目指し継続する。

4) 在宅訪問・遠隔相談、高蔵寺集会場における地域交流 快眠教室 (LB 野田明子)

地域開業医と連携し、生命健康科学研究科大学院生が在宅訪問し、睡眠時無呼吸の治療である持続陽圧呼吸療法機器管理およびマスクフィッティングを行い、空気漏れに対し対応した。また、血圧コントロール不良に対し、尿検査から運動・食事・睡眠指導を行った。今後も地域のクリニックとの連携を拡大し、在宅訪問を継続し、在宅における臨床検査の在り方を検討する。

5) CAAC講義の補助(健康増進実習など) (LE 水上健一)

CAAC(Chubu University Active Again College)の授業科目である健康増進実習(通年32コマ)にて、受講生を対象とした健康運動教室を実施した。スポーツ保健医療学科の学生7名(4年生1名、3年生4名、2年生2名)が運動指導を実施するものである。また、春・秋学期の始めと終わりに計4回、体組成測定や血圧脈波測定、体力測定を実施した。各項目の1年間の変動を個々に対してフィードバックするとともに、集団データは統計を行った上で学生が受講生に対してプレゼンテーションを行う。

健康運動教室の企画・運営、運動プログラムの作成・提供、測定フィードバック等、さらには世代間交流を通じて多くのスキルを身につけるとともに、それらを向上させることから学生のキャリア開発につながる。またデータを扱うことで研究活動の種にもなっている。今後も少しずつ活動の幅を広げ、高いレベルでのリカレント教育と学生教育のハイブリッドを目指していきたい。



6) アクティブシニアとの交流活動 (LS 谷利美希)

グループふじとう えんがわルーム (藤山台 1-1) にて全 13 回 (10 時～12 時) 開催。

参加者：シニア各日 6～7 名 (完全予約制)、社会福祉法人まちスウィングスタッフ 2 名
作業療法学科 2・3 年生 各日 3～4 名 (合計 19 名)、教員 1 名

本活動は、作業療法学生が、世代の異なる高齢者の特徴や生活状況を理解し、コミュニケーション力や状況判断力を養うために実施している。今年度は、社会福祉法人より依頼をいただき、シニア向けスマホ講座を実施した。講座の内容は、スマホの基本的な操作や機能から、便利なアプリの利用方法などについて、毎回学生たちが考えてプレゼンを行った。その後、個別相談交流会とした。参加学生は、地域在住高齢者の特徴や生活スタイル、必要としている ICT 支援を学びながら、高齢者の困りごとを解決するためのコミュニケーションを経験できた。今後の臨床で出会う高齢者との関わりにおいて、目指す生活像や必要な地域支援を考える際にこの経験が活かされると考えられた。高齢者からは、「丁寧に教えてもらえて助かった」「お話が楽しかった」「今後も継続してほしい」との声が聴かれたことから、お互いに有意義な交流ができたと考えられた。今後も、教育的効果の検証や高齢者にとっての世代間交流の意義を検討しながら、世代間交流を継続していく予定である。



7) 多学科協同による乳児と母親に対する「子育てセミナー」(LK 横手直美)

【第 1 回】 2022 年 7 月 22 日 (金曜日) 10 時 00 分～11 時 40 分

- ベビーマッサージとママのエクササイズ 保健看護学科 准教授 横手直美 (助産師)
子育てミニレッスン「赤ちゃんの発達発達とおもちゃの選び方」
幼児教育学科 講師 千田隆弘
- おしゃべりタイム
- 参加人数：乳児とその母親 7 組 (うち 1 組はパートナーも参加)、
保健看護学科学生 5 名、幼児教育学科学生 6 名

【第2回】 2022年9月2日（金曜日）10時00分～11時40分

- ベビーマッサージとママのエクササイズ保健看護学科 准教授 横手直美（助産師）
- 子育てミニレッスン「赤ちゃんのもしものときの備え」
スポーツ保健医療学科 講師 北辻耕司（救急救命士）
- おしゃべりタイム
- 参加人数：乳児とその母親4組、
保健看護学科学生4名、スポーツ保健医療学科学生4名

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度、2021年度に引き続き、Zoomを利用して「産後のママと赤ちゃんをオンラインで応援 ～ベビーとママのエクササイズ&子育てミニレッスン♪～」を2回シリーズで開催した。主催は地域連携センター、広報活動では春日井市子ども政策課のご協力を得た。

3回目のオンライン開催となった本年度は、適宜ブレイクアウトルームを取り入れ、本学の508F母性・小児看護演習室および模擬保育室、521A実習室よりライブ配信した。

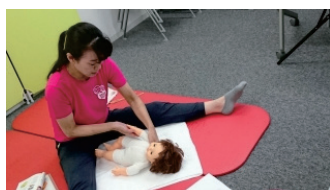
ライブ配信時は、保健看護学科、幼児教育学科、スポーツ保健学科の学生がアシスタントとして運営に参加し活躍した。学生は各学科の専門性を活かした子育て支援を経験することができていた。また、おしゃべりタイムにも参加し、「お母さんになるってどんな気持ちですか？」と質問する等、母親達と学生の交流や母親同士の交流の様子から子育ての楽しさや大変さ、各自の専門職としての役割について見つめなおす機会にもなっていた。セミナーは、平日の昼間に開催したにも関わらず、パートナーと一緒に参加してくださったご家庭もあり、日常のリラックスした環境で感染の心配もなく参加できたと参加者に好評であった。



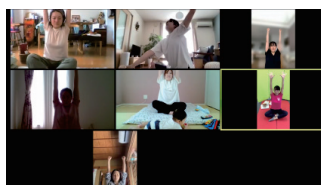
Zoom上での集合写真



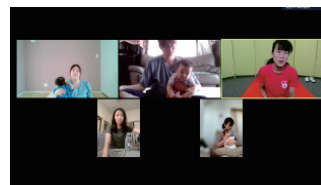
セミナーの裏側



ベビーマッサージ



ママのエクササイズ



おしゃべりタイム



おもちゃの選び方



乳児の心肺蘇生方法説明



乳児の心肺蘇生法実技

8) 令和4年度春日井市総合防災訓練 消防団活動 (LE 北辻耕司)

日時：2022年8月28日 日曜日 午前7時00分から午前10時30分まで

場所：八幡小学校、春見公園及び市民活動支援センター(春見町地内)

参加者：春日井市、各防災関係機関・地域自主防災組織、中部大学機能別分団員
教員1名

令和4年度の総合防災訓練は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じ、3年ぶりに地域住民及び学生等ボランティアが参加し実施した。

○救助・救出・救護訓練

警察、消防、自衛隊、協定を締結している民間企業などが連携して、震災時において想定される、埋没した車両に閉じ込められた要救助者の救出や、高所に取り残された要救助者の救出訓練を実施した。

○避難所設置・運営訓練

新型コロナウイルス感染症対策(受付時の手指消毒、健康チェックリストの記入等)を講じた避難所設置運営訓練を実施した。

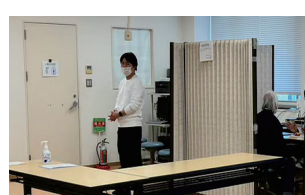
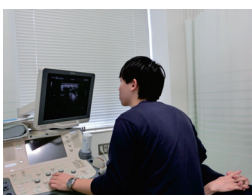
○応急手当・搬送訓練

大規模地震によって、多数の傷病者が発生したと想定し、症状に応じて応急処置を行い、救護所へ搬送する応急手当・搬送訓練を実施した。中部大学機能別分団の団員は消火器の取り扱い訓練を行い、市民への防災意識の啓発に努めた。

ここ数年、消防団の活動は新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民との交流が制限されていたが、今年度から総合防災訓練が再開され、来年度以降は地域の防災訓練や応急手当講習が行われていく予定である。そのため来年度はより活発に地域との交流をはかっていきたい。



9) 体力測定会 (LP 戸田香)



(参加者 85 名：シニア 36 名 学生 34 名 教員 5 名)

頸動脈超音波検査、睡眠・物忘れ相談、心電図検査、体力測定を実施。

本活動は平成25年から継続している企画である。今年度は台風の影響を受け、初めて日時を変更しての開催となった。当初の予定よりも参加者は減少したが総勢85名での開催となった。参加したシニアからは概ね好評を頂いたが、スタッフ不足の影響から待ち時間が多く、臨機応変の対応について課題が明らかとなった。学生からはシニアとの交流を通してコミュニケーションが取れた喜びや、自分の将来像が想像できたなど、学びに繋がった様子がうかがえた。今後は更に参加学生の学科を増やし、活動の幅を広げていきたい。

10) 中部大学春日丘高等学校衛生委員会現職教育 (LP 宮下浩二)

本来、高校部活動の外傷予防実技講習会を開催する予定であったが、先方のコロナ禍での判断により今年も中止となった。その代替行事として、春日丘高校から講義依頼を受けた「中部大学春日丘高等学校学校衛生委員会現職教育」において、春日丘高校卒業の理学療法学科の3年生4名にサポート参加をしてもらった。講演タイトルは「自分の体の特徴を知り、自分に合った健康法をみつけましょう」であった。この中で、実技を行う場面で学生には個別に指導補助をしてもらい、教員への健康指導を行った。

今回は附属高校から大学への依頼ではなく、講師は社会活動を行っている方への依頼であるため、学生参加も認めていただき、この活動を「動く」の活動に置き換えることとした。世代間交流の1つと考える。特に今回は、春日丘高校教員に対して卒業生がサポートしたため、参加者も非常に喜んで受け入れてくださった。学生も恩師へのサポートを通じた交流であり、充実した活動であったと考える。

なお、来年度以降の活動であるが、コロナ禍が収束しない限り、当初の計画は当面難しいため、いったん休止をすることとする。再度、活動が可能になった場合、社会情勢に適した活動内容を検討することとしたい。

11) 障がい者スポーツのすすめ (LB 伊藤守弘)

障害者スポーツの体験—ふれあい体験 2022 をメインアリーナで開催した。スタッフを除く一般参加者は、46 人であった。このイベントは、愛知県と愛知県社会福祉協議会、中部大学が共同主催した。2 部構成とし、1 部に講演会、2 部は障害者向け陸上競技の体験会を行い、参加者が障害者スポーツに触れる機会となった。参加者が学生のサポートを受けながら、競技や身体の使い方を学んだ。

障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である共生社会の実現に向けた取組を推進する、各人の適正にあったスポーツ活動のことを「インクルーシブスポーツ」と言う。本イベントを通し、スタッフで参加した学生も参加したハンデキャップのある方も、「インクルーシブ」という考え方をスポーツの視点から考える機会になった。



4. 今年度の課題・次年度の目標

本 WG は「世代間交流」を活動のテーマとしている。シニア・障がい者・子育て支援など、幅広い世代に対する「健康」にかかわる活動が充実している。また、学外の団体組織との連携により展開された活動も複数見られた。単発的活動よりも年間を通じた継続的な活動が増えていることも大変素晴らしいことと考えている。

活動と交流を通して学生が学びを得るにとどまらず、学生自身のキャリア開発および、地域活性化の一助となっている点から判断しても、活動内容に関する課題は殆どない。しかし、活動の多くが生命健康科学部内に限定されている点は課題と言える。健康や世代間交流は学部を問わず重要なテーマである。活動に関心を持つ他学部の学生に、可及的に門戸を開くことが次年度の目標である。(※尚、写真については許可を得て掲載)

① PBLゼミ

リーダーシップを
発揮したい!

コミュニ
ケーションが
不安...

チームに
なるとは
どういうこと?

人見知り
でグループ
ワークが
苦手!

自分らしくって?
自分の持ち味を
知りたい!

受講者満足度
95%以上!

そんな学生の皆さんへ

PBLゼミ 2022

地域・社会で活躍したい! その一歩を応援します

「PBLゼミ」は、学生自身が自分の持ち味を発揮して
地域や周囲に関わっていくための力を身に付けることができる体験型学習です。
グループワークを通して自分の新たな一面も見つかるかも?! 気軽にご参加ください。

< 2日間 連続プログラム >

9/ **14** 日(水)
15 日(木)

両日とも **9:30 ~ 17:30** 対象: 全学部生

締切: **9月2日(金)** **無料** 申込みはこちらから↓

定員: 40名(定員になり次第終了)

場所: 5131 講義室(51号館3階)

申込方法: 氏名・学籍番号・学年・
携帯番号をEメールでお知らせください



※新型コロナウイルス感染状況等によりオンライン形式に変更する場合があります。

※PBLゼミは、地域創成メディエーター「学ぶ」の**キャリア教育科目**に読み替え可能(単位認定無し)

学 習 テーマ	「自分が何かを学ぶときのスタイルを探究する」	「自他の価値観について探究する」
	「コミュニケーションについて体験的に学ぶ」	「課題解決のプロセスを体験する」 etc.



中部大学

中部大学 地域連携センター(キャンパスプラザ2階)

✉ E-mail: chiiki@office.chubu.ac.jp 担当: 蓑島・羽山・上甲 (TEL.0568-51-9872)

中部大学 御中

PBL ゼミ 2022
アンケート集計結果
報告書

2022 年 9 月

株式会社ラーニングバリュー

『PBLゼミ 2022』アンケート集計



目次

プログラム概要	3
---------	---

今回のプログラムに関するアンケート

【受講前アンケート】	4
Q 1. このプログラムに期待していますか？	5
Q 2. PBLゼミに参加を決めた理由をお聞かせください	7
Q 3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？	8
【受講後アンケート】	9
Q 1. このプログラムに満足しましたか？	10
Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？	12
Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？	14
Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？	16
Q 5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？	18
Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？	20
Q 7. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？	22
Q 8. 今回のようなプログラムはどんなタイミングで受講するのが良いと思いますか？	23
Q 9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください	24
Q 10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください	25
【受講前・後比較】	26
Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？	

*アンケートのフリーコメントについては、入力されたままを再現しています

プログラム概要

■プログラム対象

PBL ゼミ受講希望者

■実施日

2022 年 9 月 14 日－15 日

■アンケート回答者数

受講前／27 名

受講後／24 名

■プログラム

	1 日 目	2 日 目
	①オリエンテーション あいさつ 本ゼミの狙い ②個人ワーク ・実習「あなたの学習スタイル」 解説 ③グループワーク ・グループピング ・実習「記者会見」 ・ふりかえり	⑦個人ワーク・グループワーク ・実習「価値観について」 ・ふりかえり ⑧個人ワーク・グループワーク ・実習「ライフポジションについて」 ・相互検討 & 解説 ⑨グループワーク ・実習「対人コミュニケーションについて」 ・グループ検討 ・解説
	昼食	昼食
	④グループワーク ・実習「総当たりインタビュー」 ・ふりかえり ⑤グループワーク ・実習「コンセンサスを求めて」 ・実習のふりかえり ⑥本日のまとめ	⑩グループワーク ・実習「課題解決実習」 ・ふりかえり ⑪個人ワーク・グループワーク ・実習「イメージ交換」 ⑫PBLゼミ2022のまとめ ・PBLゼミ2022のまとめ

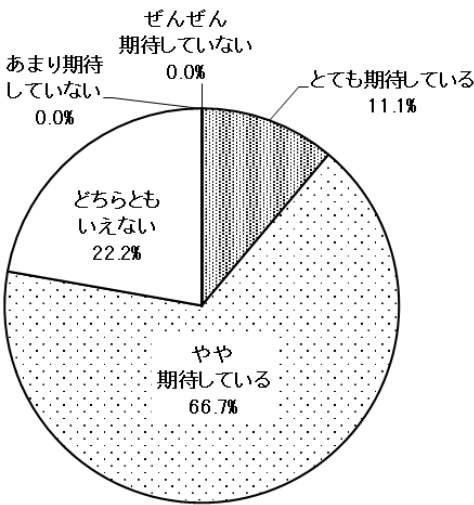
『PBLゼミ 2022』アンケート集計



受講前アンケート

Q 1. このプログラムに期待していますか？

期待度



期待度		とても期待している	やや期待している	どちらともいえない	あまり期待していない	ぜんぜん期待していない	無回答
全体	27	3	18	6	0	0	0
		11.1	66.7	22.2	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

フリーコメント／それはなぜですか？

【とても期待している】

グループワークがあるから
自分の苦手を少しでも克服できそうだから。
社会に出た時にどう対処するか、人とコミュニケーションを取り共同作業能力を培えると思ったため。

【やや期待している】

いろんな学年と学科の人と関わることができるから
グループワークが苦手なので得意になったらいいと思うから
グループワークで活動するから
グループワークを通してコミュニケーション力も鍛えられたらいい
このプログラムを通して自分のコミュニケーション能力を高めることができると思うから
コミュニケーションが苦手なため
コミュニケーション能力を磨くことができると思うから
ディスカッション能力の向上を目指したいため。
どういことをするのか気になったため。
関わったことのない学生との交流を深めたい
資格がとれるから
資格が取れるから
資格が取れるから
資格取得に繋がるから
自己のことをさらに発展するため
自己成長
他学科との交流を増やせそうだから。
内容を見て面白そうだったから

【どちらともいえない】

どういったものかあまり分かっていないから
何をやるか知らないため
何をやるのかあまり理解してない
何を行うか具体的に知らないから
思考力を鍛えられるため。
自己理解はある程度できていると思っているから

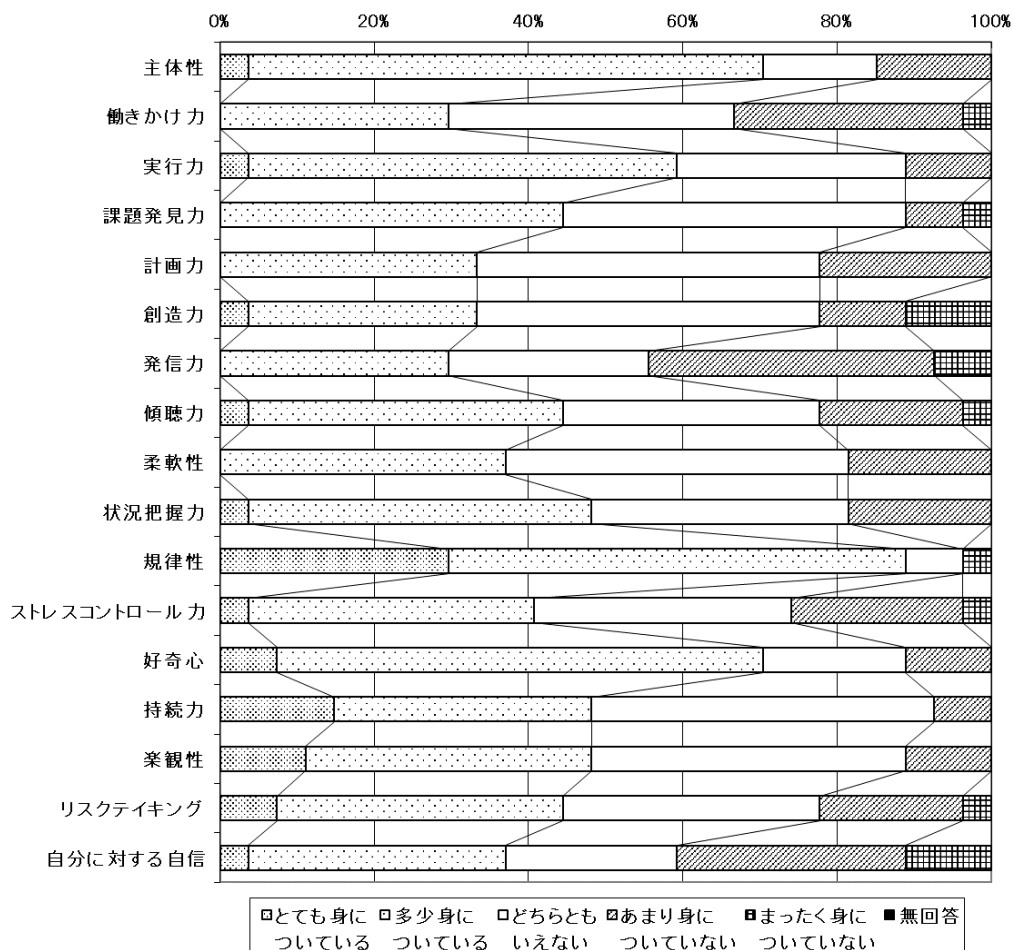
Q2. PBLゼミに参加を決めた理由をお聞かせください

フリーコメント

いろいろな人と関わり自分の知らないところに気づき成長したいと思ったから
興味があったから
興味があったから
資格が取れるから
資格をとるため。
資格を取りたい
資格を取るため
資格取得のために必要ではあったが、グループワークについての知識を学びたかったから。
自己理解をしながら他者が自己理解を深めるため
就職する時に役立てたいから
就職に有利な資格が取れると聞いたから
将来のため
相手が自己理解を深める際に自分自身が協力することで自分自身も人の話を理解出来る力が着くと思ひ、自分に足りないものを身につけて行けると考えたため。
他の学科の人と関わることができるから。
単位もらえるから
地域創成メディエーターのため
地域創成メディエーターの資格取得のため
地域創成メディエーター取得のため。
地域創成メディエーターに挑戦したいと考えました。
地域創成メディエーターの資格が取れるとおすすめされたから
地域創成メディエーターの資格を取るのに必要だったため。
地域創成メディエーターの資格を取る為
地域創成メディエーターの資格取得のため
地域創成メディエーターの取得に必要だったから
地域創成メディエーターの単位取得のため
地域創成メディエーター資格取得のため
様々な人と交流する機会がコロナの影響で少なくなっていたため、人との交流を増やすためにPBLゼミに参加しました。

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q3. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？



(%)

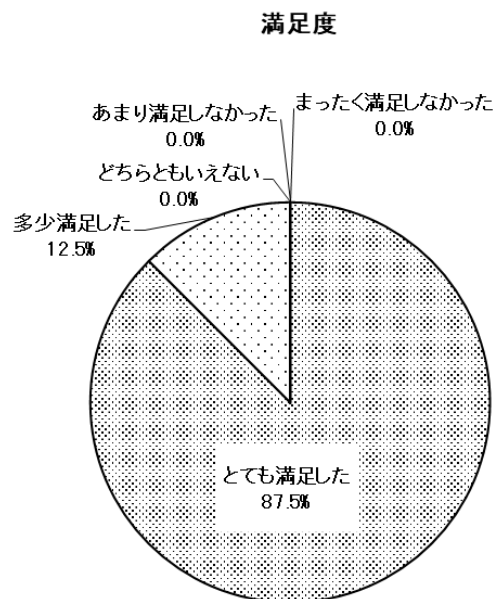
	サンプル数	とても身に ついている	多少身に ついている	どちらとも いえない	あまり身に ついて いない	まったく身に ついて いない	無回答
主体性	27	3.7	66.7	14.8	14.8	0.0	0.0
働きかけ力	27	0.0	29.6	37.0	29.6	3.7	0.0
実行力	27	3.7	55.6	29.6	11.1	0.0	0.0
課題発見力	27	0.0	44.4	44.4	7.4	3.7	0.0
計画力	27	0.0	33.3	44.4	22.2	0.0	0.0
創造力	27	3.7	29.6	44.4	11.1	11.1	0.0
発信力	27	0.0	29.6	25.9	37.0	7.4	0.0
傾聴力	27	3.7	40.7	33.3	18.5	3.7	0.0
柔軟性	27	0.0	37.0	44.4	18.5	0.0	0.0
状況把握力	27	3.7	44.4	33.3	18.5	0.0	0.0
規律性	27	29.6	59.3	7.4	0.0	3.7	0.0
ストレスコントロール力	27	3.7	37.0	33.3	22.2	3.7	0.0
好奇心	27	7.4	63.0	18.5	11.1	0.0	0.0
持続力	27	14.8	33.3	44.4	7.4	0.0	0.0
楽観性	27	11.1	37.0	40.7	11.1	0.0	0.0
リスクテイキング	27	7.4	37.0	33.3	18.5	3.7	0.0
自分に対する自信	27	3.7	33.3	22.2	29.6	11.1	0.0



受講後アンケート

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q 1. このプログラムに満足しましたか？



満足度		とても満足した	多少満足した	どちらともいえない	あまり満足しなかった	まったく満足しなかった	無回答
全体	24	21	3	0	0	0	0
		87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／それはどうしてですか？

【とても満足した】

グループワークに対してマイナスなイメージしか持ってなかったけど、みんなが真剣に取り組んだことで、より良い活動となり、有意義なものとなったから。
グループワークの中でどのように動くとスムーズに話し合いが進めることが出来るかを2日間で学ぶことができた。また自己理解できたり人との関係性を持つ機会を得られたことがすごく貴重な経験であったと考える。
コミュニケーション能力が強化できた。
とても楽しかったから
とても充実した時間を過ごせました。
楽しかったから
思っていたより打ち解けて話すことができた
自己理解や自分に足りないところ、コミュニケーション力がすごいみについたから
自分の気づかないことに気づくことができ、また自分の持っていないことを吸収して成長することができたから。
自分の苦手克服につながったから。
自分の長所が見つけられた
自分自身が思ってることと他の人の思ってることが違うと、そういう考えがあるのかとなったから。また、自分の知らなかったことが知ることが出来たから。
初対面の人と交流でき、様々な課題に取り組む中で自分のコミュニケーション能力を高めることができたから。
色々学べて楽しかったから
他学科他学年の人と話す機会は滅多にないし、自分の意見を発表し、他の人の意見を聴き続ける活動はなかなかないので、貴重な経験ができたから。
他者から見た自分をしれたから。「違いを楽しむ」ということを学べたから。
知り合いが一人もいない中でも、たくさんの人と関わり楽しくグループワークができたから。
普段できない活動ができて、貴重な体験ができたから。また、いつもなら交流できない学科の方と交流することができたから。
普段ならできない体験ができた。
普段関わっている人ではなく、新しい人と関わったことで、普段ではいないタイプの人や触れない考え方を知ることが出来たから。
話し合いが苦手だったが少し得意になったから。

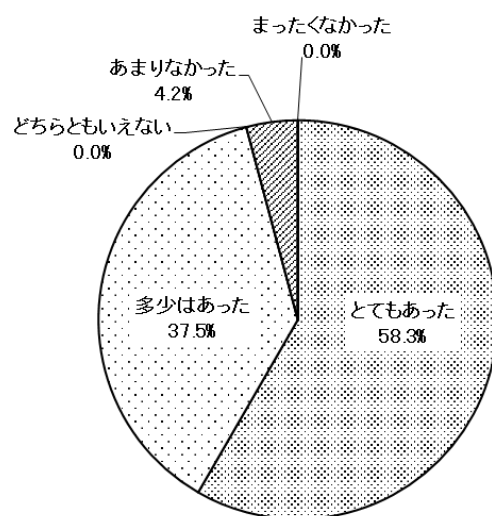
【多少満足した】

自己理解が深まったと感じたから。もう少し課題解決の部分をやりたかった。
自分の知らない側面を知ることが出来たし、グループワークが楽しかったから
内容良かったけど時間が長すぎた

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q 2. このプログラムを受け、自分自身に対して、新たな発見がありましたか？

自分自身への新たな発見



自分自身への新たな発見		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	24	14	9	0	1	0	0
		58.3	37.5	0.0	4.2	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／それはどのような点ですか？

【とてもあった】

イメージ交換で自分ではできていないと思っていたところができるよとたくさん言って貰えた
まとめることに若干のトラウマがあり、引いていたつもりでいたが積極的に動くことが出来たことでそれをグループメンバーが認めてくれた。
リーダーシップやコミュニケーション力はあったが、周りの意見を引き出す力が不足してるという発見があった
違いを楽しむなどという点
気持ち次第で雰囲気良くできること。
自分が思った以上に聞く力があるということ。
自分が思っていたより積極性があった。
自分の、考えを再確認することができました。
自分の欠点を上手くカバーし、自分なりの解決する方法を見つけました。
自分の新しい良いところをメンバーの人に見つけてもらったところや、話し合いの中で発言する時自分は緊張で言葉数が多くなって話が脱線しやすい所を発見することが出来た。
自分は意見を言うことが得意でなくて、意見を言えないと思っていたが他の人からすると意見をしっかりと言えていると言われた点。
自分は頑固なところがあると思っていたけど、グループワークの中でみんなの意見を取り入れられたり、柔軟に対応出来たと思うから
将来にも直近にも大切なコミュニケーションがどういうものなのかというものを学べたから
相手が話している時に相づちをうったり、相手と話すときに笑顔で話していたりする点

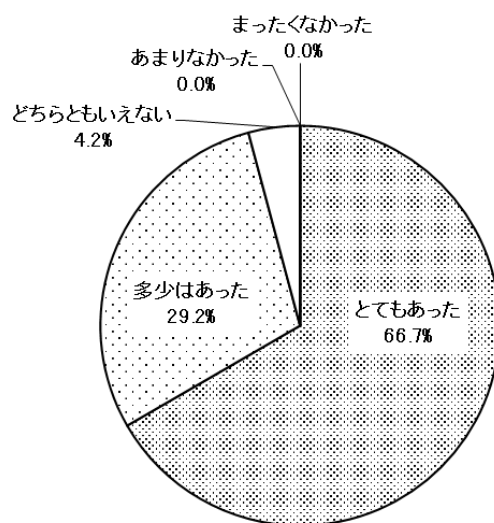
【多少はあった】

1度話し始めると止まらない。
コミュニケーションの大切さ
はじめましての人でも思ったより話せた。
私は頑固、私の短所と長所は何なのだろうと改めて考え直すきっかけになった。
自分の意見を自ら伝えようとするができるんだと気がついた
自分の話をするよりも、人の話を聞くことのほうが得意なこと
自分は話すことが不得意な方ではないと思っていたが、意外と質問を考えたりするのは難しいということ
的確なことを根拠を持って伝えられた点。
物事に対して意見を持っていること

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q 3. このプログラムを受け、「相手のことを知る」ことに変化がありましたか？

他者理解に変化はあったか



他者理解に変化		とてもあった	多少はあった	どちらともいえない	あまりなかった	まったくなかった	無回答
全体	24	16	7	1	0	0	0
		66.7	29.2	4.2	0.0	0.0	0.0

(上段: 人, 下段: %)

フリーコメント／それはどのような点ですか？

【とてもあった】

2日間では相手のことなんてそんなに分からないと思っていたけれど、そんなことはなく相手の良いところをたくさん見つけることができた
たくさん質問する中で深く知りたいと思うことが増えた
みんな異なる価値観や考えで、その中、うまく話を進めるにはどうしたら良いのかと学ぶことができた
もちろん見た目だけでわかることでは無いし、話してみてこんな考え方をするんだと何度も驚かされた。
価値観の違いや、性格がよくわかった
自分と意見が違ってても、理解する努力をすることでも十分話がはずむこと
初めましての人と仲を深めることができた。自分にその力があることに自信がついた。
人に興味を持って質問することができたと思う。
相手が自分と同じ受け取り方、気持ちになるとは限らないし、その人の価値観が当然あるから、まずは、相手の気持ちや考え方を理解しようとするのが大事だと感じた。
相手とは価値観や考え方が違ってくるけど、相手の言っていることを理解しながら話を聞くことが大切だと感じた
相手のいい所を見つけやすくなった
相手の考えてることを聞いて、この人はこういう風に考えているんだと思うことが出来た点。
相手の視点、共感できるものを知り、それをもとに話しながら相手を知ることが大切だとわかった
相手の話をよく聞いて自分の考えに囚われないようにすること
相手を知ることで会話がスムーズになることを理解した。
相手を知ることに先入観などが今まではあったが、コミュニケーションを通して接するなかでラフに知り合うことができることを知れたこと

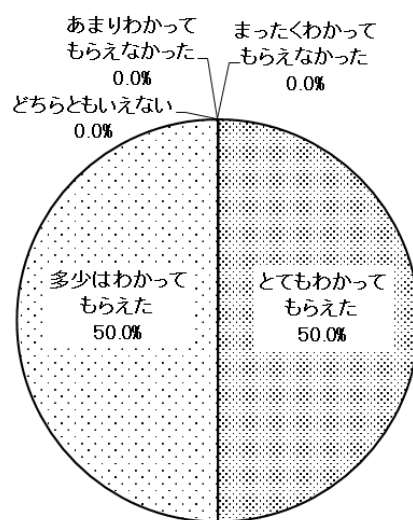
【多少はあった】

最初は興味がなくても話していくうちにこの人はどんな人だろう時になって、相手のことを知ろうとした。
自分と物事の捉え方が違うというところ。
初めて会う人がほとんどなので、自分の知らない価値観や考え方を持っていたりし、あまり人に興味を持たない方だけどそれでも興味を持ったから。
少し相手に対しての情報を提示してもらえると自分との知っていることや経験などの知識とつなげて案外話することができると感じたこと。
色々な価値観があり、自分の持ち味を上手く活かして行動できる人が多いと思いました。
相手に寄り添うことの大切さを再認識した。
聞く時の反応の大切さを学びました。違いを受け入れて関わるのが大切だと分かりました

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q 4. このプログラムで、グループのメンバーに自分のことをわかってもらえましたか？

自分のことをわかってもらえたか



自分のことをわかってもらえたか		とてもわかってもらえた	多少はわかってもらえた	どちらともいえない	あまりわかってもらえなかった	まったくわかってもらえなかった	無回答
全体	24	12	12	0	0	0	0
		50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(上段: 人, 下段: %)

フリーコメント／それはどのような点ですか？

【とてもわかってもらえた】

1 度話すとよく話すところ。
イメージ交換で自分ではできていないと思っていたところができるよとたくさん言って貰えた
いろんな見方で物事を考えられること
プレゼントカードに書いて貰った点
リーダーシップや接しやすい姿勢
私が気づけないことも私が長所だと思うことも沢山褒めていただきました。自分の新たな課題も見つかりました。
自分から積極的に発言したり、相手のことを考えながら進めていったりすること
自分に対して思っていることがわかったから
初対面だけど、2 日間を通して、仲良くなり、自己開示が出来るようになったから
率先して行動できること。

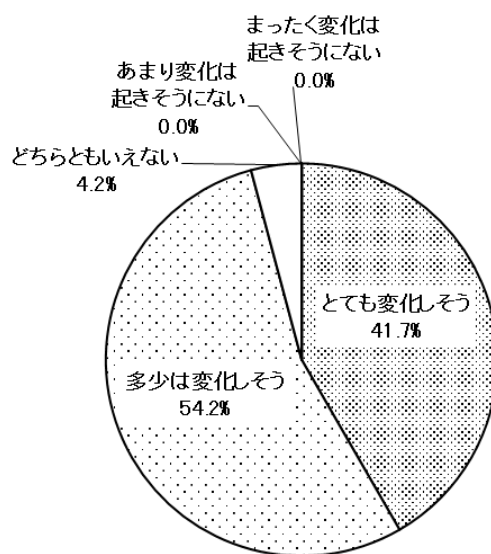
【多少はわかってもらえた】

アンケートで性格などが出たように、そうばいねって言われたため。
グループでの話し合いは得意ではないが、自分の価値観や考え方を発表したり、たわいもない会話をしたりしたことで知ってもらえた点。
とてもよかった
よく話すこと
自分が少しわかりにくい言い方をしても、他の人がしっかりと話を聞いてくれた点。
自分の意見を言おうとしていることなどを最後のプレゼントカードで理解してくださっていた
自分の考えをはっきりもち、それを相手に伝えられる点。
自分の思いがちゃんとメンバーに伝わっていたこと。
深くまでは伝えてないから分からないと思うけど、ある程度の人となりは分かってもらえたと思う。
総当たりインタビューで自分が普段感じていることを共有できたこと。
話し合いの中である程度役割ができていたので、多少わかってもらえたのかと思った。

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q 5. このプログラムを受け、授業への取り組み姿勢に変化がおきそうですか？

授業への取り組み姿勢の変化



授業への取り組み姿勢の変化		とても変化する	多少は変化する	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	24	10	13	1	0	0	0
		41.7	54.2	4.2	0.0	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／どんな変化ですか？

【とても変化しそう】

グループワークが苦手だったが、この活動を通して苦手意識をほぼ無くすことができた。
グループワークでの動き方が分かったのもっと積極的に行動できそうです。
グループワークなど人と関わるが多いため、リーダーシップを発揮しつつ、みんなをうまく取りまとめられるように頑張っていきたい
グループ活動でもっと発言しようと思う
プロセスの交えた姿勢に自分の意識を変えた気と思った。
もっと相手の話を積極的に聞いたり、聞き方を変えたりしたいと思う
学科でのグループワークではもっと活発に働きかけたい。主体性を大切にしていきたい。
自分から積極的に発言するようになると思う
先生の話し方で得ることが増えると思いました。
話を聞いてそれを持ち帰ってからまた学習すること

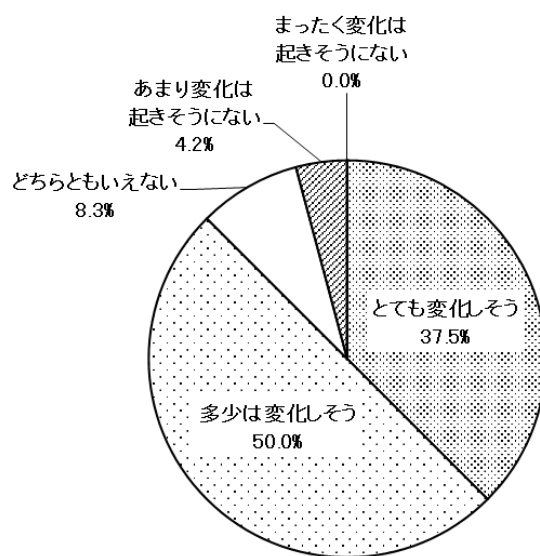
【多少は変化しそう】

グループワークや実習が多いので、今回学んだことを活かせると思う
どんなに辛い授業でも耐える忍耐力
意見を言う時はしっかりと言うところ。
協力的になる
自らの意見を発信することの重要性を感じたから意見ははっきり言う
実験などでもみんなで考えて進めていこうと思った。
授業内のグループワークをもっと良いものにできそう。
人の意見の聞き方や聞く姿勢、グループワークの取り組み方に対する変化。
積極的に周りの人と協力を呼びかけようと思った。
前よりかも自分の意見を言いやすくなったと思う。
前向きにとりくめそうです。
相手に意見を伝えるときにどのようにしたら良いのかよく考えることができそう

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q 6. このプログラムを受け、今後の学生生活に変化がおきそうですか？
どのような変化ですか？

今後の学生生活の変化



今後の学生生活の変化		とても変化する	多少は変化する	どちらともいえない	あまり変化は起きそうにない	まったく変化は起きそうにない	無回答
全体	24	9	12	2	1	0	0
		37.5	50.0	8.3	4.2	0.0	0.0

(上段:人, 下段:%)

フリーコメント／どんな変化ですか？

【とても変化しそう】

コミュニケーションのスタイルが変化しそうです。
さまざまな行事やイベントに積極的に参加していくと思う
もう少し他人とのコミュニケーションを大切にしようと思うようになった。
意見を相手に伝えることによって、相手にも自分はどんな人なのか分かってもらえるところ。
学部に関心をもつてばかりではいけないと思いました。
色々な人がいるので、みんなとの関わり方
相手と自分は全然違うから、感情的に怒ったり、イライラしたりする事が無くなりそう
日常生活でも相手の話をより聴くようになる
明るく過ごす

【多少は変化しそう】

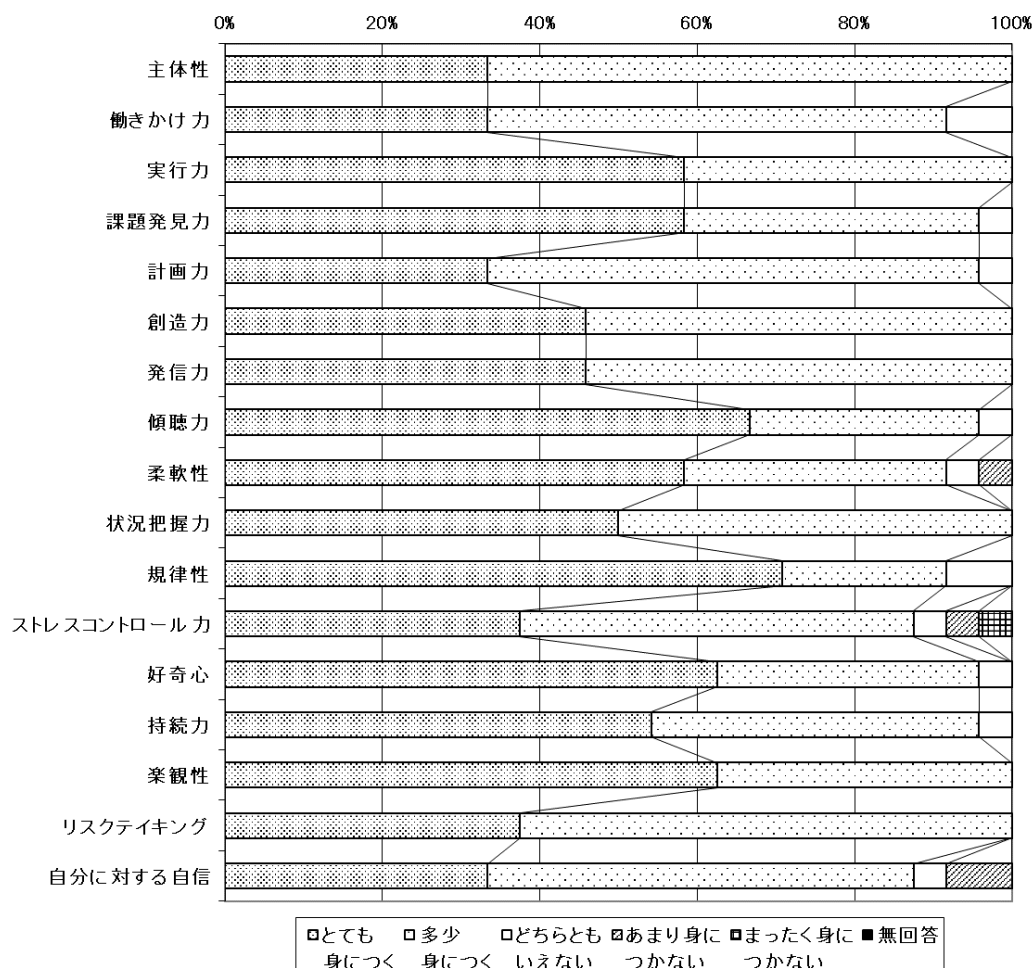
いろんなことに挑戦してみようと思う。
コミュニケーション能力の向上、相手への興味
コミュニケーション能力を鍛える
これからも自分のペースで前進し続けたいと思った。
違いを楽しむということを意識して行動していきたい
周りとの交流をどんどん増やそうと思うようになった。
人と意見交換をする時に視野が広がると思う。
人に興味を持つこと。
大学生のうちにもっといろんなことに挑戦してみようと思えました。
様々な人と話していこうと思った。そのなかで、色々な考えに触れ世界を広げようと思った。

【どちらともいえない】

変えていけるように頑張ります

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

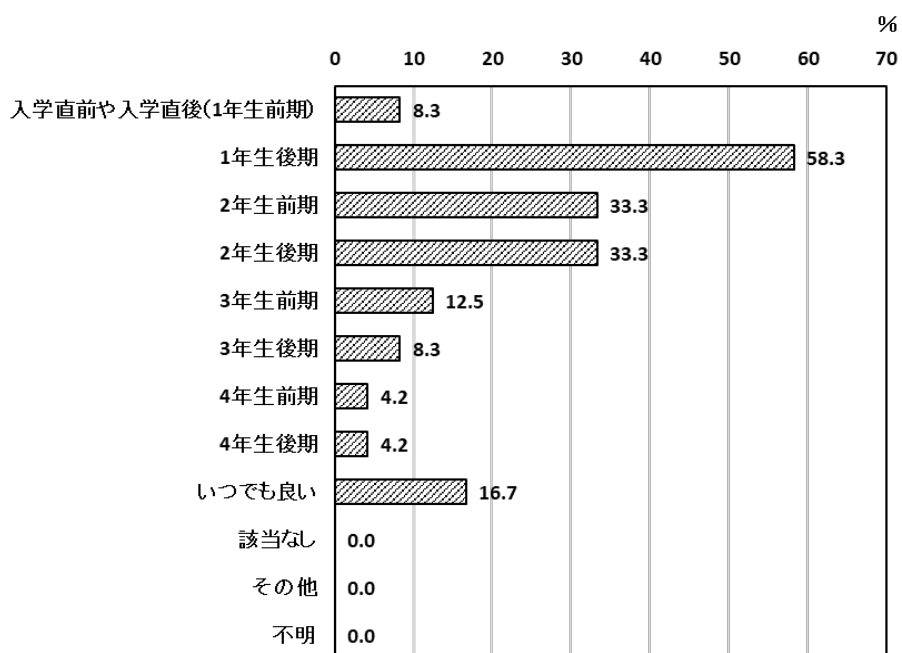
Q7. それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？



(%)

	サンプル数	とても 身につく	多少 身につく	どちらとも いえない	あまり身に つかない	まったく身に つかない	無回答
主体性	24	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
働きかけ力	24	33.3	58.3	8.3	0.0	0.0	0.0
実行力	24	58.3	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0
課題発見力	24	58.3	37.5	4.2	0.0	0.0	0.0
計画力	24	33.3	62.5	4.2	0.0	0.0	0.0
創造力	24	45.8	54.2	0.0	0.0	0.0	0.0
発信力	24	45.8	54.2	0.0	0.0	0.0	0.0
傾聴力	24	66.7	29.2	4.2	0.0	0.0	0.0
柔軟性	24	58.3	33.3	4.2	4.2	0.0	0.0
状況把握力	24	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
規律性	24	70.8	20.8	8.3	0.0	0.0	0.0
ストレスコントロール力	24	37.5	50.0	4.2	4.2	4.2	0.0
好奇心	24	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	0.0
持続力	24	54.2	41.7	4.2	0.0	0.0	0.0
楽観性	24	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0
リスクテイキング	24	37.5	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0
自分に対する自信	24	33.3	54.2	4.2	8.3	0.0	0.0

Q 8. 今回のようなプログラムはどんなタイミングで受講するのが良いと思いますか？
(複数選択可)



	件数	%
入学直前や入学直後(1年生前期)	2	8.3
1年生後期	14	58.3
2年生前期	8	33.3
2年生後期	8	33.3
3年生前期	3	12.5
3年生後期	2	8.3
4年生前期	1	4.2
4年生後期	1	4.2
いつでも良い	4	16.7
該当なし	0	0.0
その他	0	0.0
不明	0	0.0
全体	24	100.0

『PBLゼミ 2022』アンケート集計

Q9. このプログラムの講師について感じたことを自由にお書きください

フリーコメント（Q1の満足度別）

【とても満足した】

ありがとうございました！
とても親身になって授業してくださりありがたかったです。
とても素敵なお方でした。勉強になりました！
とても良い方で今回受けて良かったと思いました。
プログラムごとへの意見が言いやすかった
苦手を得意に変えることの出来るプログラムを考えてくださる方だと思いました。
最初はどんなことをするのか分からなかったが、色々なプログラムをやっていくうちに、自分はどんなことを思っているか相手はどんなことを思っているかなど新しい発見ができて良かったです。ありがとうございました！
最初は投げやりな感じがあったが、逆にそれがとてもよかった
細かいところまで、のぞんでいるのだなと感じた。
自己理解が十分に進むようなプログラムになっているなと感じました。
自分のことをよく知ることができました
誰にでも分かりやすく説明していた。話し方も落ち着いた感じでとても良かった。
丁寧な説明ありがとうございました。
明るくてポジティブな印象を受けました。マイナスなことを言わない姿勢に、私も見習いたいと思いました。グループワークが終わるまで時間を十分にとってくれるし、充実したグループワークになりました。
話し方が上手だった

【多少満足した】

いい人だった。プログラムも工夫してくれていて、楽しめた。
親しみやすい方でした

Q10. このプログラムについて感じたこと、気づいた点などを自由にお書きください

フリーコメント（Q1の満足度別）

【とても満足した】

グループワークが苦手な人でも得意になるようなプログラムでした。

コミュニケーション大切

とても、楽しかった。

自分の子とを知るよい機会になりました。

とても自分について考える良い機会になりました。

良い機会を提供していただきありがとうございました。

もっと広まってもいいのに！と思います！

よい経験になりました。ありがとうございました。

学年学科を超えることで新しい人との出会いや考え方に逢えた。

今後似たようなことがあったらぜひ参加したいと思いました。

最初はどのようなのか不安だったけれど、2日目には緊張も溶け、楽しむことができました。

2日間ありがとうございました

参加して良かったです。

自分に足りないものを改めて感じさせられる授業だった

自分自身の成長にとってもつながる授業だったので、良かったです。

新しい自分を発見できるので、みんな参加するのがいいなと思った。

新しい発見がある楽しい2日間でした。

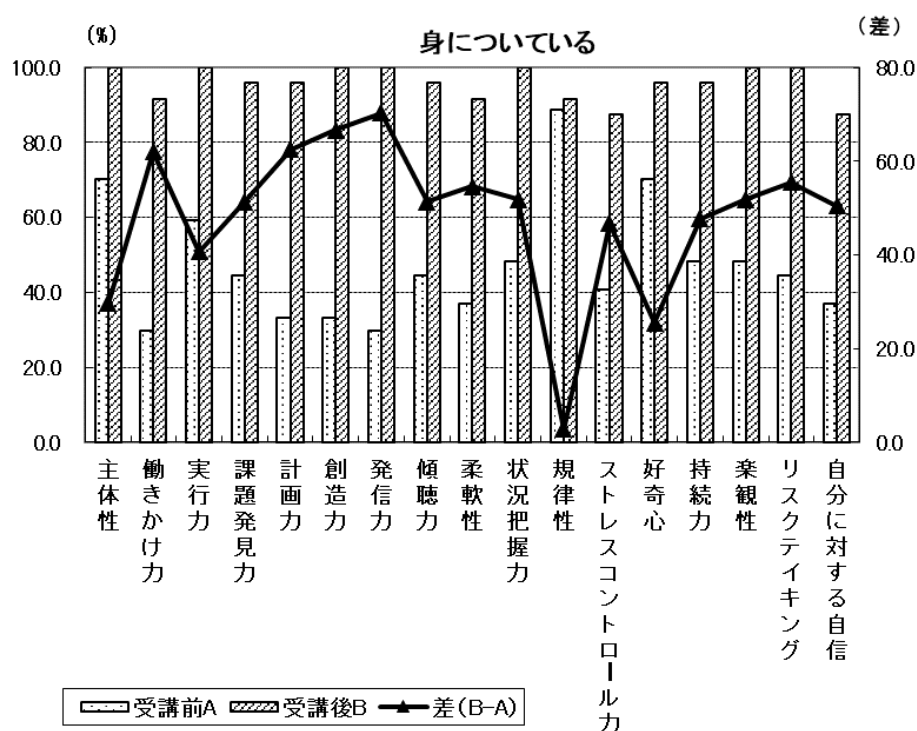
先輩後輩関係なく話せる機会はなかなかないので良かったです

『PBLゼミ 2022』アンケート集計



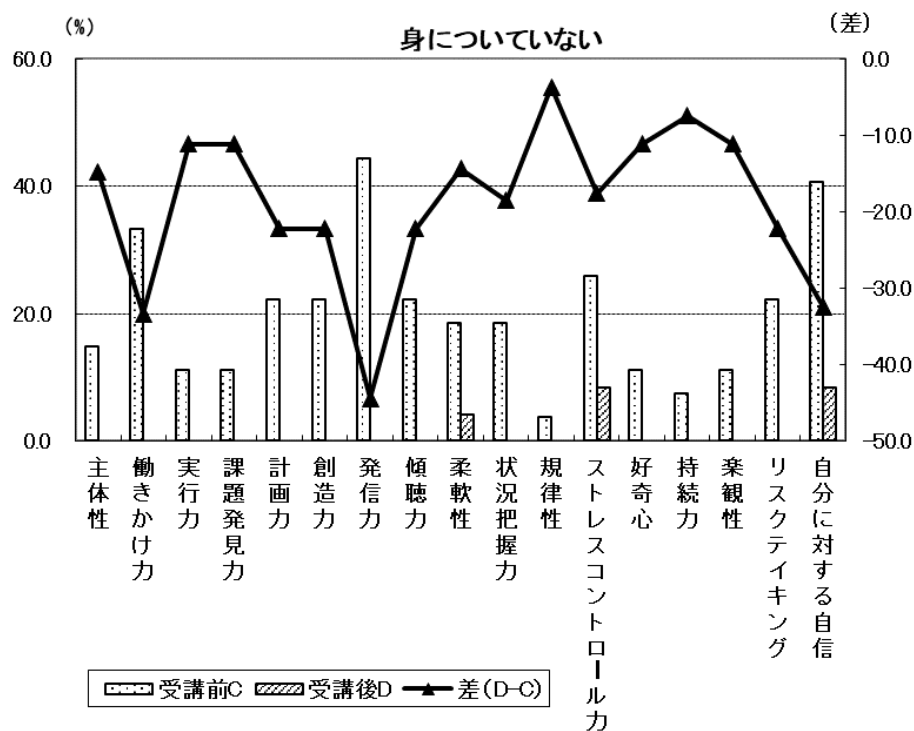
受講前・受講後比較
(社会人基礎力)

Q：それぞれの力や姿勢について、現在の自分にどれくらい身についていると思いますか？

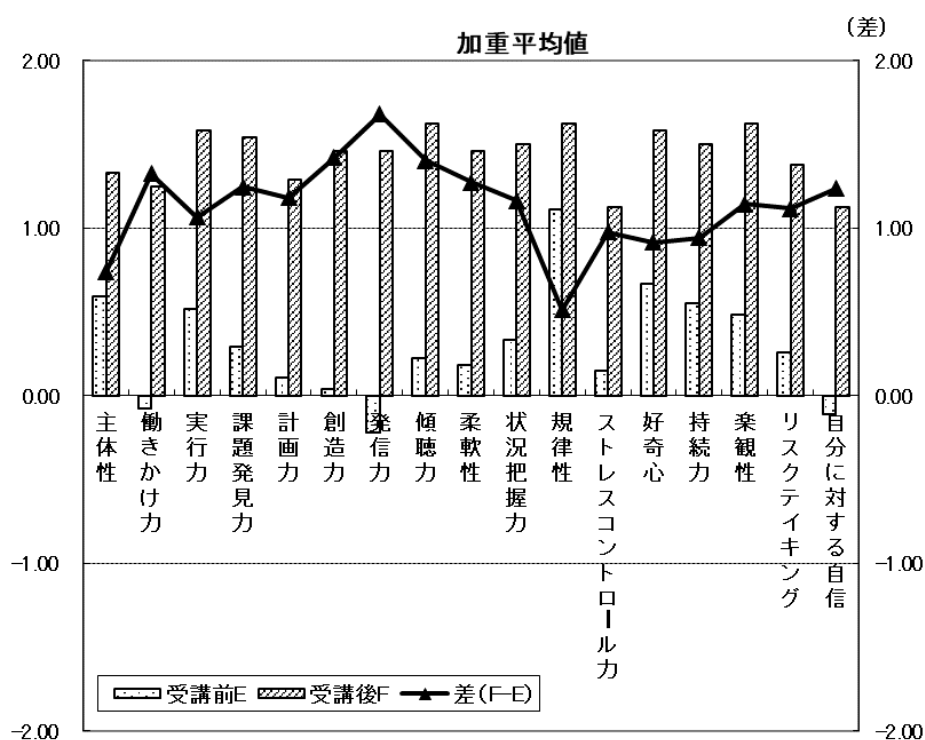


	身についているA-B		
	受講前A	受講後B	差(B-A)
主体性	70.4	100.0	29.6
働きかけ力	29.6	91.7	62.0
実行力	59.3	100.0	40.7
課題発見力	44.4	95.8	51.4
計画力	33.3	95.8	62.5
創造力	33.3	100.0	66.7
発信力	29.6	100.0	70.4
傾聴力	44.4	95.8	51.4
柔軟性	37.0	91.7	54.6
状況把握力	48.1	100.0	51.9
規律性	88.9	91.7	2.8
ストレスコントロール力	40.7	87.5	46.8
好奇心	70.4	95.8	25.5
持続力	48.1	95.8	47.7
楽観性	48.1	100.0	51.9
リスクテイキング	44.4	100.0	55.6
自分に対する自信	37.0	87.5	50.5

『PBLゼミ 2022』アンケート集計



	身についていないC-D		
	受講前C	受講後D	差(D-C)
主体性	14.8	0.0	-14.8
働きかけ力	33.3	0.0	-33.3
実行力	11.1	0.0	-11.1
課題発見力	11.1	0.0	-11.1
計画力	22.2	0.0	-22.2
創造力	22.2	0.0	-22.2
発信力	44.4	0.0	-44.4
傾聴力	22.2	0.0	-22.2
柔軟性	18.5	4.2	-14.4
状況把握力	18.5	0.0	-18.5
規律性	3.7	0.0	-3.7
ストレスコントロール力	25.9	8.3	-17.6
好奇心	11.1	0.0	-11.1
持続力	7.4	0.0	-7.4
楽観性	11.1	0.0	-11.1
リスクテイキング	22.2	0.0	-22.2
自分に対する自信	40.7	8.3	-32.4



	加重平均値		
	受講前E	受講後F	差(F-E)
主体性	0.59	1.33	0.74
働きかけ力	-0.07	1.25	1.32
実行力	0.52	1.58	1.06
課題発見力	0.30	1.54	1.25
計画力	0.11	1.29	1.18
創造力	0.04	1.46	1.42
発信力	-0.22	1.46	1.68
傾聴力	0.22	1.63	1.40
柔軟性	0.19	1.46	1.27
状況把握力	0.33	1.50	1.17
規律性	1.11	1.63	0.51
ストレスコントロール力	0.15	1.13	0.98
好奇心	0.67	1.58	0.92
持続力	0.56	1.50	0.94
楽観性	0.48	1.63	1.14
リスクテイキング	0.26	1.38	1.12
自分に対する自信	-0.11	1.13	1.24

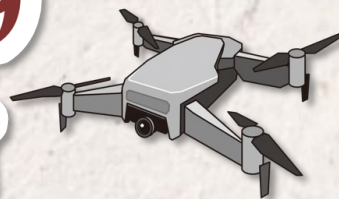
② サマースクール 2022 in 美濃

COC+参加大学共通プログラム



サマースクール 2022
inMINO

美濃市を飛ばせ! 強みを伸ばす ドローン戦略



2022
9/3^土, 4^日, 10^土

美濃市は、美濃和紙やうだつの上がる町並みなど、伝統文化のよく残るまちです。市をあげて観光まちづくり、農林業を支える人材育成、伝統産業の継承などに取り組んでいます。美濃市が魅力と活力あふれるまちとして飛躍できるよう、新しい工夫を提案してください。



1 日目 9:00~17:00
現地見学・ドローン体験
(美濃市内)



2 日目 10:00~17:00
グループワーク
(日本福祉大学東海キャンパス)
(名鉄太田川駅すぐ)

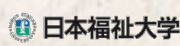
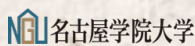
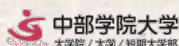


3 日目 10:00~16:00
発表会
(美濃市内)



ドローンとは、無線操縦で飛行する小型無人機。最新テクノロジーの象徴的な存在です。空撮用ドローンやドローンパフォーマンスのような楽しむ使い方だけでなく、農薬散布や索道用ドローンのような産業用にも展開しています。2022年度から免許制度が始まり、活用の幅はさらに広がることでしょう。ドローンを使ってどんな未来が描けるでしょうか。

(協力：株式会社ROBOZ)



【サマースクールとは】

ぎふCOC+事業推進コンソーシアムは、岐阜県における若者の地元定着率を上げることを目的として、岐阜県内の企業と大学生との接点増加の試みを実施しています。産業界ニーズにより適した人材を育成する教育プログラムを各大学において展開している他、大学共通のプログラムとして開催しているのがサマースクールです。

今年のサマースクールは美濃市役所のご協力のもと、岐阜県美濃市（中濃圏域）をフィールドとして開催します。このプログラムでは、地域を支えている方々や他大学の学生と一緒に地元の「将来」を考えていきます。地域の現状や地元企業の理解を深め、自分の能力を磨いて、今後のキャリアの選択肢を広げましょう。

参加費

0円

ただし食費、集合場所までの交通費は自己負担。
プログラム都合により、昼食が弁当提供になった場合は
弁当代（1食1,000円未満）を当日徴収します。

行程表

詳細は決定後に連絡しますが、フィールドワークは岐阜県美濃市内で実施します。
すべてのプログラムを対面で実施します。
1日目、3日目はJR岐阜駅から送迎バスを出します。2日目は現地集合です。

参加人数

40名程度

申込締切

2022年 8月4日(木)

【申込書】

8月4日申し込み締切

申込書に記入し、地域連携センター（キャンパスプラザ2階）まで提出してください。

氏名		学年	
学籍番号		学部	
携帯電話		メールアドレス	
集合場所 (1・3日目)	美濃市役所 ・ JR岐阜駅前 JR岐阜駅前からはバスで移動します。2日目は現地集合のみです。 ※状況によりフィールドワーク（現地実習）ができない場合は日程を延期する可能性があります。		
その他 (配慮事項など)			

申し込み先 | 中部大学 地域連携センター（キャンパスプラザ2階） 蓑島・羽山・上甲
Tel : 0568-51-9872 Mail : chiiki@office.chubu.ac.jp

記載いただいた情報は、サマースクール2022以外の目的に使用しません。

サマースクールについて（報告）

1. 概要

全体テーマ：美濃市を翔ばせ！強みを伸ばすドローン戦略

実施日：2022年9月3日(土)、4日(日)、10日(土)

見学先：①株式会社 ROBOZ（ドローンミュージアム、美濃橋ドローン活用現場）

②美濃市観光スポット3館（美濃和紙の里会館、今井家住宅、あかりアート館）

参加者学生：25人

【修了証授与者一覧】セルを塗っているのが市長賞（緑）・社長賞（オレンジ）受賞者

1	岐阜大学	工学部	4年		男	b-1
2	中部学院大学	人間福祉学部	2年		女	b-1
3	中部学院大学	人間福祉学部	2年		女	a-1
4	中部学院大学	人間福祉学部	2年		女	b-3
5	中部学院大学	人間福祉学部	2年		女	a-2
6	中部学院大学	人間福祉学部	2年		女	a-3
7	中部学院大学	人間福祉学部	2年		女	b-2
8	中部大学	人文学部	1年	原田 優里	女	a-2
9	中部大学	人文学部	2年	伊藤 敬子	女	a-2
10	中部大学	応用生物学部	3年	可知 英里香	女	a-1
11	中部大学	現代教育学部	4年	鎌田 莉緒	女	a-3
12	中部大学	工学部	2年	河村 航太郎	男	a-1
13	中部大学	人文学部	1年	中野 賢治	男	b-1
14	中部大学	工学部	3年	蟹江 偉吹	男	b-2
15	中部大学	工学部	3年	岩田 蛍汰	男	b-3
16	日本福祉大学	健康科学部	3年		男	a-2
17	日本福祉大学	経済学部	3年		男	a-3
18	日本福祉大学	健康科学部	3年		女	a-1
19	日本福祉大学	健康科学部	3年		女	b-2
20	日本福祉大学	国際福祉開発学部	2年		女	b-3
21	名古屋学院大学	現代社会学部	3年		女	b-3
22	名古屋学院大学	現代社会学部	2年		女	a-3
23	名古屋学院大学	外国語学部	4年		女	b-2
24	名古屋学院大学	現代社会学部	3年		女	a-2
25	名古屋学院大学	外国語学部	3年		女	b-1

市長賞：b-1.めがねっこ 社長賞：a-3.ぴったり着陸 2345

【表彰について】

参加した全員に修了証を授与。

※最終発表に参加できなかった学生は2名いるが、そこに至るまでの過程でしっかり参画しているのでプログラム修了を認める。

市長賞、社長賞の受賞者には賞状（市長賞は複製）と副賞。

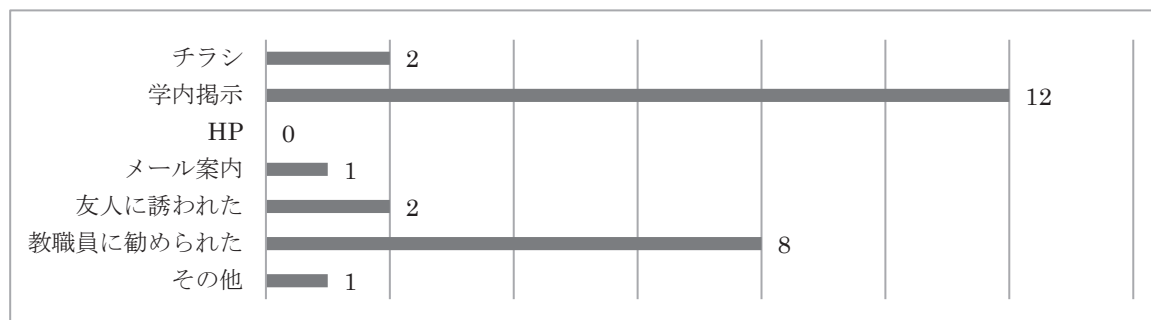
※賞状は準備が整い次第担当部署宛に発送する。副賞は当日現地にて授与済。

2. 学生アンケート結果（回答数 23（回収率 92% ※当日参加者で見れば 100%））

1. 回答者について

- (1) 所属大学：岐阜大学 1、中部学院大学 6、中部大学 6、日本福祉大学 5、名古屋学院大学 5
 (2) 参加バス：A11、B12

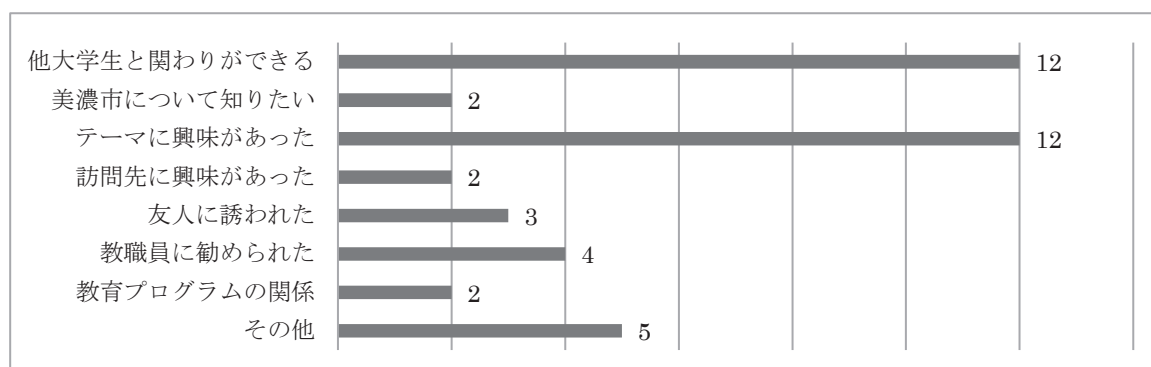
2. どのようにしてサマースクールを知りましたか（複数回答可）



【その他の記述内容】

- ・大学 HP 内の「お知らせ」から

3. 参加しようと思った理由は何ですか。（複数回答可）

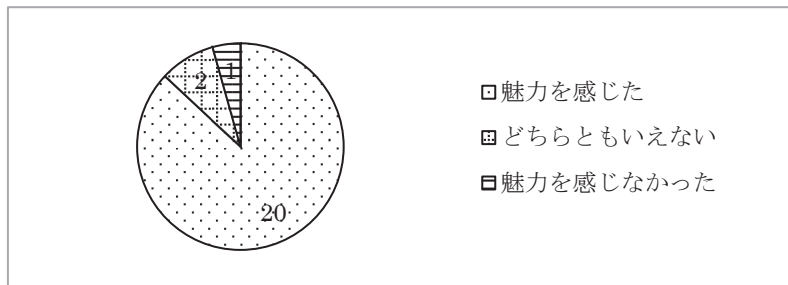


【その他の記述内容】

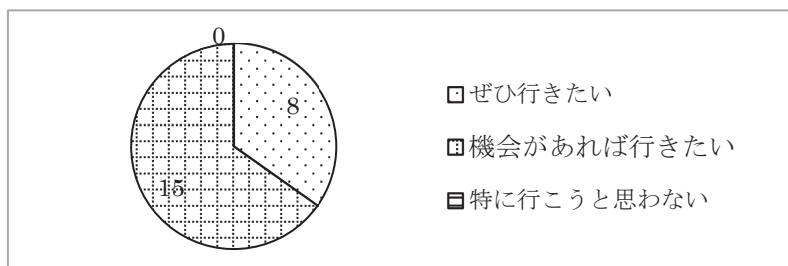
- ・就活の ES に書けると思ったから
- ・やってみたいと思った
- ・グループワークに取り組みたかった
- ・美濃市にまだ行ったことがなかったので参加して美濃市の場所を知りたかったから。
- ・ドローンに興味があった。観光として延ばすにはどうすべきか考えてみたかった。

4. 美濃市について

(1) 今回のプログラムを通して美濃の魅力を感じましたか？



(2) また美濃を訪れたいと思いますか

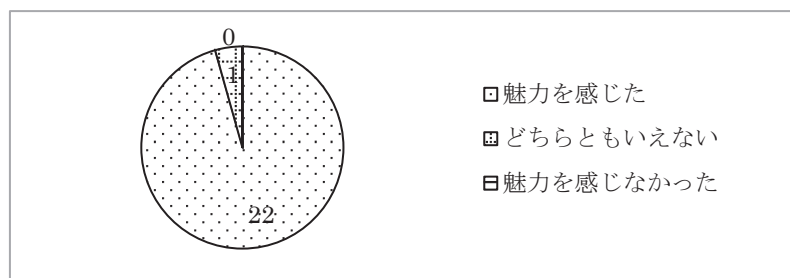


(3) 特に印象に残った美濃の魅力があれば教えてください（回答 21 件）

1	美濃の自然。いつかバーベキュー行きたいです。
2	美濃和紙が魅力に感じました。紙すき体験をはじめてしたので、印象に残っていて、美濃和紙アートが楽しかったです。
3	和紙が有名であり、体験ができたのがとても楽しかったです。
4	ドローン
5	うだつの上がる町並みは、歴史的な文化を感じながらお店を巡ることができる素敵なお店だと思いましたし、美濃和紙の体験が楽しかったです。
6	あかりアートは本当に美しかった
7	うだつの上がる町並みで明かりを使ったオブジェがきれいだった。ゆっくり回りたいと思った。
8	今回はうだつの上がる町並みと美濃和紙に焦点を置いていたが、清流長良川や山などもとてもきれいだと感じました。
9	あかりアート展がすごくキレイでした！
10	紙すき体験・美濃和紙の里会館の見学から和紙の新たな魅力を知ることができた。
11	美濃和紙の里会館。時間があつたらもっとゆっくり見たかったし、体験も楽しかったからです。
12	昔ながらの街並み、人の手で作られる美濃和紙、自然豊かな環境
13	1300 年以上残る美濃和紙や、うだつのあがる町並みなどを初めて知り、とても印象に残りました。
14	うだつの町並み→高山の“古い町並み”と同じ人が設計していると初めて知りました。
15	自然や山々に囲まれている地形、きれいな川
16	あかりアート展の作品がきれいでもっと見たいと思った。
17	美濃和紙でクッションや服、イヤリングなどがつくれること
18	私が特に印象に残った美濃市の魅力はドローンに関して、また美濃和紙のあかりアートです。
19	ドローン、和紙
20	うだつのあがる町並みを生かした現代らしいお店、カフェやパティスリー等
21	自然豊かな点。川を近くで見たことが無かったため、印象に残った。

5. 地元企業（株式会社 ROB0Z）について

(1) 今回のプログラムを通して地元企業（株式会社 ROB0Z）の魅力を感じましたか？



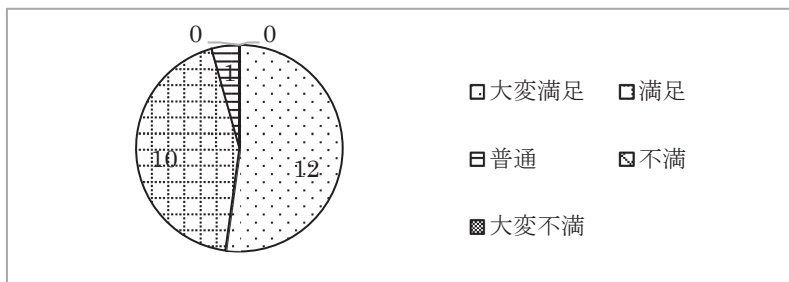
(2) 特に印象に残ったことがあれば教えてください。（回答 20 件）

1	社長の人生話。
2	空を飛ぶドローンだけでなく、ロボマスターというドローンがあることを知れたので印象に残っています。
3	ロボットを操縦し、カメラからスマホで景色を見れたり、ドローンを上空へとばし高倍率で遠くを見られることに驚いた。
4	ロボマスターとドローン体験
5	ドローンには、ロボマスターのような地面を進むものもあるのだということを知り、面白かったです。美濃橋での観光客への呼びかけ（ゴミ捨てに関する）はなかなか見ないものでしたので、面白いと思いました。
6	社長の経歴がなかなかでした。
7	ドローンの操作を初めて行っただけで、すごく楽しかったし、難しいと感じた。
8	ドローンによる高性能カメラの空撮に興味があったが、雨で体験できなかったのも逆に印象に残りました。また、操縦難度が高いとされるレーシングドローンの実演も面白かったです。
9	空撮ドローンやりたかったです。体験がすごく楽しかったです。
10	ドローンの操縦を初めてやったので印象に残りました。最新技術も知れて興味深いところがたくさんありました。
11	ドローンの活用の幅や最新の技術
12	社長の分かりやすいドローンの説明（ドローンの種類、免許、実演など）、ドローンの操縦体験（小さいドローンや、プログラムを構築して飛ばすもの）
13	大学生の方などもスタッフとして参加していることに驚きました。ドローンは大小様々あること、操縦は小さいものほどむずかしいということが印象に残りました。
14	様々な種類のドローンがあることに驚きました。
15	ドローンを使用し、岐阜県以外の仕事も行っているところ
16	ドローンで録画ができることに驚いた。
17	川でドローンをスピーカとして扱っていたことがとても印象深かったです。
18	自分で空に飛ばした事
19	ドローンに関して今まであまり知らなかったのも、ドローンでできることをたくさん知ることが出来て、特に印象に残った。
20	ドローンについてすごく知識を深められた。

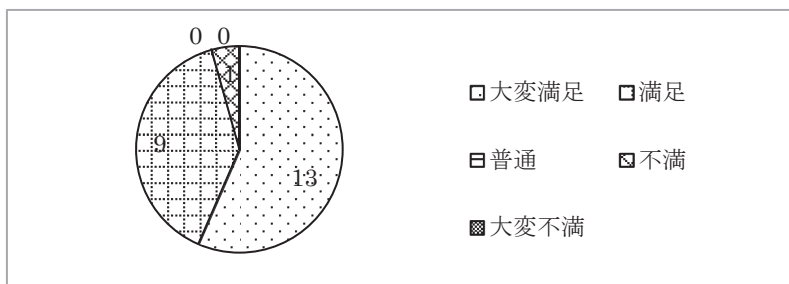
6. プログラム満足度を教えてください。

【全体プログラムについて】

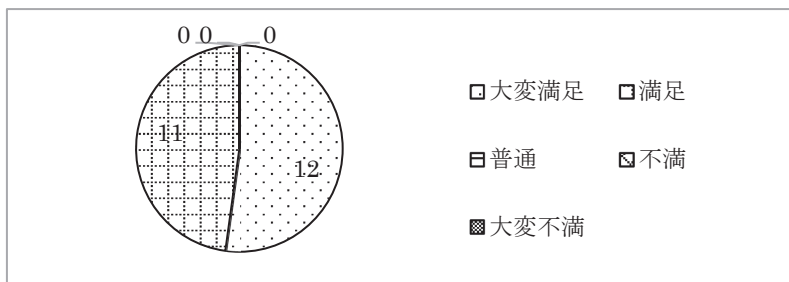
(1) 全体



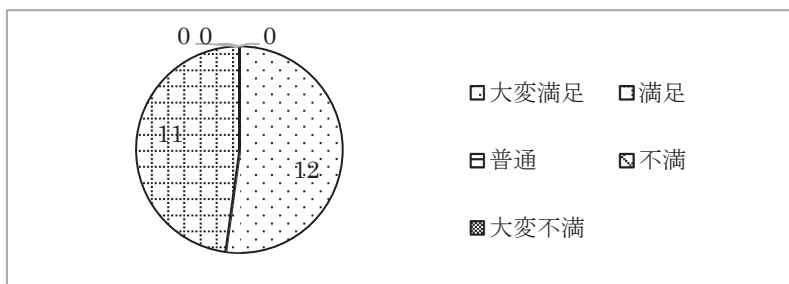
(2) 1日目



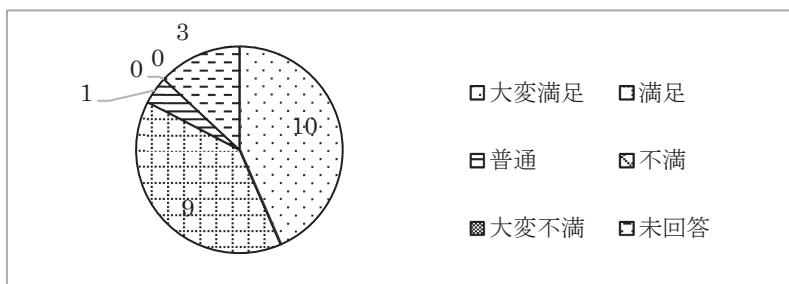
(3) 2日目



(4) 3日目

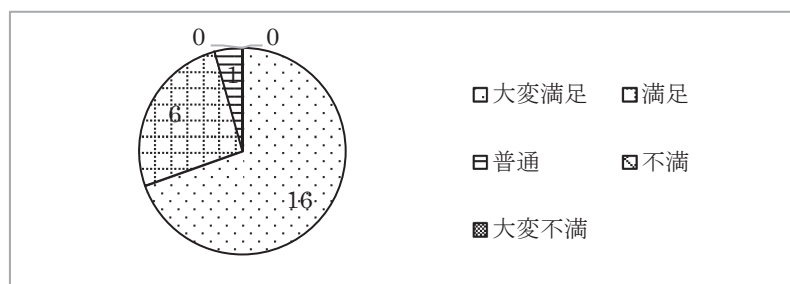


(5) 教職員の関わり

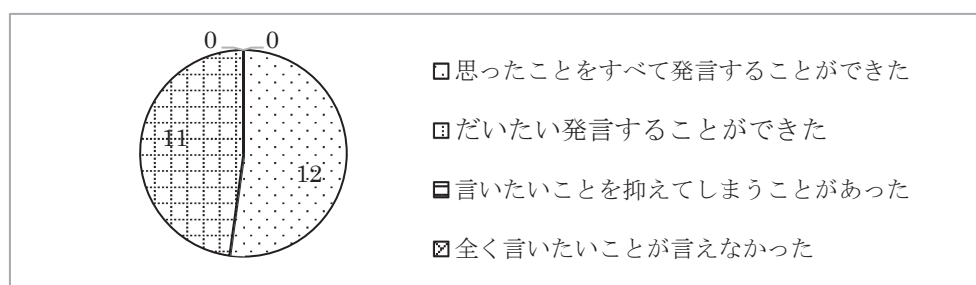


【グループワークについて】

(6) チームの雰囲気



(7) グループワークは十分に発言することができましたか



(8) 自チームの提案について、自分ではどう評価しますか？（100 点満点で何点をつけますか？）

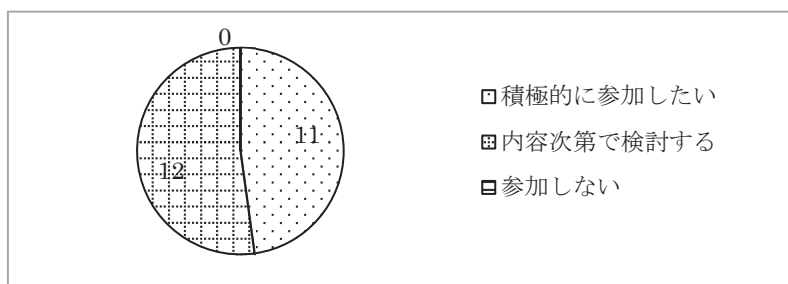
点数	評価コメント
85	うまくまとめることができたと感じます。もう少し深く掘り下げられればもっと良かったかもしれません。
100	全員がコミュニケーションをとろうとして、仲良くなったし、楽しくすごすことができました。
100	雰囲気もよく、それぞれキャラが違い分担して協力することができた。
85	
90	古民家カフェ、美濃和紙ミュージアム、ロボマスターの新たな活用は面白い提案だったと思います。言葉で表すのは難しいのですが、少しモヤモヤとした感じが残るかなと思いました。
100	4人全員が協力してベストを尽くせたと感じた。リーダーを務めたが、大学・学年関係なく発現し、協力していた姿にとっても覇気が感じられ、充足感を感じた。
60	ドローン×美濃市でドローンをからませる提案がなかなか思いつかなくて困った。
85	発表スライドの文字・表などの工夫や、提案内容、根拠と併せてもう少し時間があれば踏み込めたと感じるし、革新性が恐怖もあり出せなかった。
90	少ない時間初対面のメンバーで上手に意見がまとまったと思います。
90	限られた時間の中で多くの情報を集め、提案ができたと思う。SNS の使い方についてももう少し深く議論できたら良かった。
75	フィードバックにもあったのですが広報活動についてより詳しくできたら良かったかなと思いました。
100	メンバーの雰囲気があたたかく、アイデアも多く出たため、その流れにのって自分も発言することができた。
90	美濃市に寄り添えなかったことが反省点です。また、分析をもう少しできればと感じました。
75	他の班との差別化をはかろうとしたが、方向性がさだまらなくなってしまった。
90	実際の資料を含めた具体的な提案ができたと思います。広報について改善のコメントをいくつかもらったので考えていきたいです。
70	グループで決めた方針で提案までもちこめたのはよかった。さらに詳しいところまで提案にできればよかった。

2 活動報告

65	まあまあ頑張った
100	もし実現したら行きたいと思うので良いと思う。
90	データに基づいて説明することができた。
100	チームがとても関わりやすい人だったので自分の意見もすぐに発言できました。
120	自分が話した提案がすべてスライドに反映されていたためとても話しやすかったし、さらによくしていくための話し合いもとてもよかった
60	自身で言いたいことが言えたが、チームのまとまりを意識して言えなかったため。
90	アート×ドローンという新しいものを考えられたと思う。

(平均自己評価：87.4点)

6. 今後も同様の企画があれば参加したいですか



7. その他気づいたことや感想、意見等、ご自由にお書きください。(回答 15 件)

1	楽しかったです。
2	なかなか体験することができないことや、他部署の方と関わることでとても楽しかったです。知らなかったことや九州したいことを見つけたことができたので、充実した3日間でした。
3	チーム最高でした!!
4	美濃和紙には元々特に魅力を感じていて、体験ができたことを嬉しく思います。うだつの上がる町並みは以前小学生のときに来たときより、より見ることができて良かったと思います。今後の大学生活でも今回の取り組みを活かして頑張りたいです。
5	とても楽しかったです。
6	美濃市に来たことがなくて知らないことが多かったけど、今回参加してレトロな町並みがきれいだったし、他大学の人と交流できて学びが深まった。
7	3日間楽しい時間を過ごすことができました！
8	3日も普段とは違う体験ができた、他校の生徒とコミュニケーションがとれる良い機会だったと思います。自分にとって良い経験になりました。また、SNS等については自分も色々調べてみようと思います。
9	3日間様々なプログラムを準備していただきありがとうございました。濃密な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
10	他大学の人と同じグループで話し合うのは新鮮で楽しかったです。
11	男女比にかたよりがある。
12	先生方の意見がすごく参考になった。学年も学部も学校も違う人と仲良くなれて良かった。
13	企画に参加することによってたくさんのことを知ることができ分りました。
14	とても良いチームに会えたと思う
15	1日目フィールドワークから意見のまとめまでが短く、最終発表までに時間が限られているのがしんどかった。他大学ということもあり時間の調整が難しかったです。

以上

中部大と共同学習

名古屋中央
アスコン

昭和土木・大林道路共同企業体名古屋中央アスコン(時田正隆営業所長)は、中部大学との共同企

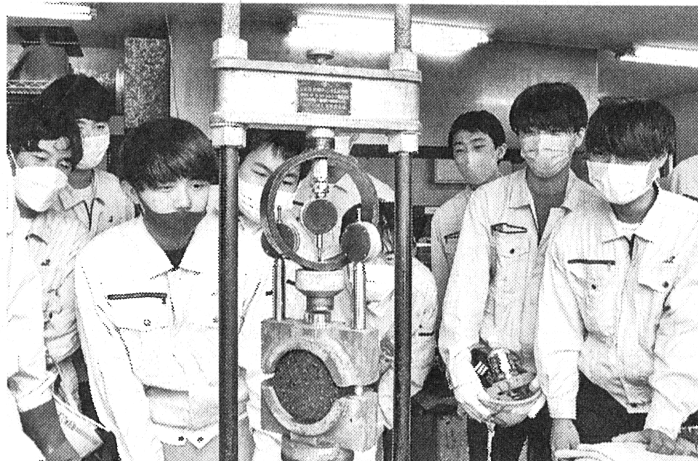


画「考動、未来につなぐ・残す」に基づく事前学習を、工学部都市建設工学科の2・3年生12人を対象に実施した。写真。同企画は、中部大学の学長が認定する「地域創成メディエーター」の育成プログラムに名古屋中央アスコンが協力しているもので、昨年に続き2回目となる。事前学習は時田所長が講師となり、「サステイナブルなアスファルトについて」をテーマに、アスファルトの特性や活用方法を、学年ごとに座学で伝えた。学生たちは、リサイクル率99%を超えるアスファルトを通じ、温暖化対策やごみの再利用などの可能性を探った。

今後、7月16日に名古屋中央アスコンで現場視察と実習体験、9月14日に発表会を行う予定。

2022年6月29日(水) 建通新聞

*この記事・写真等は、建通新聞社の許諾を得て転載しています。



中部大学生が体験実習 アスファルトづくりに挑戦

大学生がサステイナブルなアスファルトづくりに挑戦。昭和土木・大林道路共同企業体名古屋中央アスコン（蒔田正隆所長）は16日、中部大学工学部都市建設工学科の2・3年生12人との共同企画「考動、未来につなぐ・残す」の実習を行った。6月の事前学習に続く今回は、プラント施設でアスファルトができるまでのフローを見学。合材からアスファルトづくりを体験し、規格内の硬さになっているかを測定した＝写真。体験後、産業廃棄物の有効活用についてディスカッションし、アスファルトの可能性を探った。

2022年7月21日（木） 建通新聞

*この記事・写真等は、建通新聞社の許諾を得て転載しています。

◇地域活性化へ提案 県内外の5大学の学生が美濃市に地域活性化のアイデアを提案するサマースクールが3、

あらかると



4、10日の3日間であった。岐阜大、中部学院大、中部大、日本福祉大、名古屋学院大の25人が参加し、市の魅力とドローンを組み合わせた提案を作った。

10日には市文化会館で武藤鉄弘市長とROBOZ（本社・恵那市）の石田宏樹社長に向け発表した。学生は、観光客数の推移や市の課題を分析。ドローンを使ったライトアップやカヌー体験をドローンで撮影するといった多彩なアイデアを披露した＝写真。

2022年9月21日（水） 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

車いす競技を体験 障害の理解深める

中部大で、講演も 障害への理解を深めるこ

などを目的とした「障害
者スポーツの体験・ふれあ



ピンを避けながらゴール
を目指すスラロームを体
験する参加者＝春日井市
松本町の中部大で

い交流2022」が三日、
春日井市松本町の中部大で
開かれ、四十六人が参加し
た。

県と県社会福祉協議会が
主催。参加者は、理学療法
士らによる講演会や障害者
向け陸上競技の体験会で、
障害者スポーツに触れた。

体験会では、立ち幅跳び
や三十メートルの短距離走などが
あった。参加者は、十種類
のコースを回り、県障害者
スポーツ指導者協議会の会
員や同大の学生らのサポー
トを受けながら、競技や体
の使い方を学んだ。
車いすでコース上のピン
を倒さないよう、ゴールを
目指す競技を体験した田口
健人さん（二七）は「障害物の
周りを回るのが思ったより
難しかった」と話した。

2022年12月4日（日） 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

天文台 20年ぶりに復活



津島・南小 校長や中部大講師ら修理

津島市南小学校の校舎屋上にある天文台が二年がかりの修復作業を終えて約二十年ぶりに復活し、月や木星、土星などの天体を観測する催しが開かれた。天文台は半世紀ほど前に設置されたとみられるが、老朽化で動かなくなっていたのを見かねた関係者の努力によってよみがえった。

(吉田幸雄)

2年がかり 努力実る

同校の天文台は、主鏡の直径が二十五センチの反射望遠鏡があり、望遠鏡には天体の動きに合わせて自動で調整する装置も付いている。だが、老朽化が進み、天文台の半球状のドームを水平に回転させる装置や、反射望遠鏡を自動で調整する装置が動かなくなっていた。

そこで伊藤亮校長（まひや、同校で星空教室を開く中部大非常勤講師の伊藤敏彦さん（みん）らが三年ほど前から相談を重ね、二年前から具体的な修理に着手した。まずドームを回転させる装置の隙間にある、ごみを取り除いたり、油を差したりした。さらに反射望遠鏡を制御する装置の歯車がすり減っていたため、中部

復活した天文台で天体を観測する子どもら＝津島市の南小で

大で理科実験のサポートをしている教育技術員に頼んで新しい部品を製作してもらった。

二年がかりの修復作業が完了した十二月初めに天体の観測会があり、望遠鏡のレンズ越しに浮かび上がる星空を見た子どもたちから歓声が上がった。同校五年望月明香里さんは「初めてこんな望遠鏡をのぞいたけど、大きなクレーターがはっきり見えた」と喜んだ。

中部大の伊藤さんは「復活できないかもしれないと思っていたが、よくここまで直すことができた」と感慨深げ。伊藤校長も「はつきりと観測できるまで望遠鏡の主鏡などを調整するのは大変だったが、ついに実現できた」と笑顔を見せた。

市内では八つある全ての小学校に天文台があるが、稼働できるか把握できていない学校もあるという。星空教室の指導に来ていた中部大の天文台の副台長大嶋晃敏さん（あき）は「天文台は貴重な施設で、市内のあちこちにあるのはすごいこと」と述べた。

2022年12月23日（金） 中日新聞

*この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

ダイコン特性料理で生かす



ダイコン売り場前の特設ブースで
資料の説明をする学生

愛知・中部大学の学生 直売所で研究発表

【愛知・尾張中央】
中部大学で地域創成メ
ディエーター取得を目
指す応用生物学部食品
栄養科学科管理栄養科
学専攻の1年生5人は
12月、「大根の特性を
活（い）かした料理づ
くり」をテーマとした
研究の成果発表を、フ
ォーマーズマーケット
（以下、FM）ぐうび
いひろばの売り場で実
施した。

地域再生・地域活性
化と学生の応用力を養
う課題体験プログラム
を導入する地域創成メ
ディエーターの取得過
程では、FMぐうびい
ひろばの職員や生産者
が協力の下、毎年さま
ざまな研究成果の発表
を行っている。

本年度の取り組みで
は、産直施設職員に
よる学内講義や学生に
よる生産者へのインタ
ビューなどを行った
り、その調査に基づ
いた実験や調理が行わ
れたりするなど、3
カ月間にわたりダイコ
ンの特性を研究してき
た。

研究対象として選ば
れた5種類のダイコン
は、同JAの産直施設
で販売されている品種
からピックアップさ
れ、手作り資料にダイ
コン料理のポイントな
どと合わせてまとめ
た。

資料では甘さ、辛
さ、みずみずしさなど
六つの項目についてレ
ーダーチャートで比較
・検証した他、品種ご
とに異なる硬さや食べ
る部位による食味の変
化などについてもグラ
フや図を用いて説明。
売り場内に専用のプ
ースを設置して行われ
た成果発表では、学生
たちが来店者一人一人
に声をかけて研究の成
果を伝えた。

発表を行った学生は
「自分たちの研究の成
果が皆さんのお役に立
てたらうれしい」と笑
顔で話した。

学生たちは今後、
2月中旬に活動の振り
返りをまとめた報告を
学内で発表する予定
だ。

2023年1月11日（水） 日本農業新聞

*この記事・写真等は、日本農業新聞社の許諾を得て転載しています。

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（平成25年度～平成29年度）
『春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業』

文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」（平成27年度～令和元年度）
『岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成』

2022(令和4)年度
「地(知)の拠点継続事業」成果報告書

発 行 日 2023(令和5)年3月

編集発行 中部大学 国際・地域推進部
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地
電話：0568-51-9872 FAX：0568-51-1172
<https://www.chubu.ac.jp/community-extension/>

印 刷 木野瀬印刷株式会社
〒486-0958 愛知県春日井市西本町三丁目 235番地

